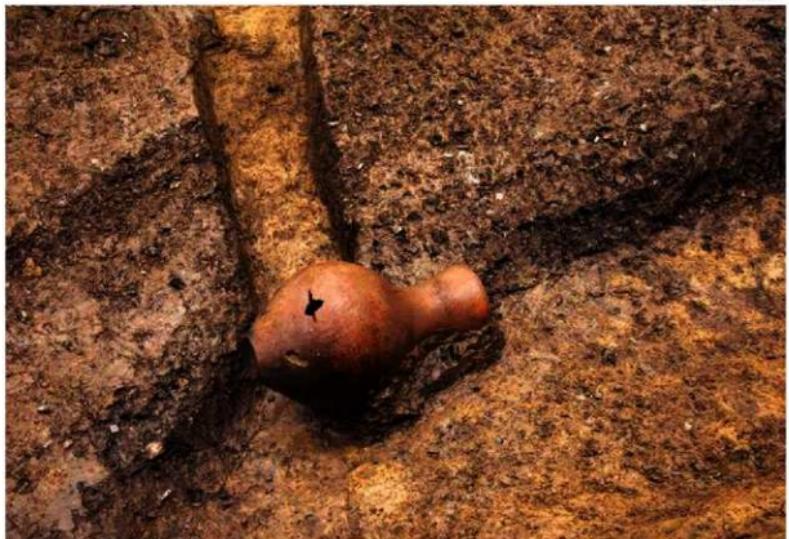


且来V遺跡・且来VI遺跡

— 秋月海南線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 —

2023年3月

公益財団法人 和歌山県文化財センター



1 2206 方形周溝墓遺物出土状況（東から）



2 2206 方形周溝墓発掘状況（北から）



3 2206 方形周溝墓出土弥生土器長頸壺 (48)

序

且来V遺跡及び且来VI遺跡が所在する海南市は、和歌山県北部に位置し、北は和歌山市、紀の川市、東は紀美野町、南は有田市、有田川町と境をなしています。沿岸部は紀伊水道に臨み、古くから紀州漆器の産地として知られています。

且来V遺跡及び且来VI遺跡は海南市の北部に位置する遺跡で、且来V遺跡は弥生土器が出土する散布地、且来VI遺跡は弥生時代から古代にかけての集落跡として知られた遺跡です。且来VI遺跡は県道小野田内原線拡幅工事によって初めてその存在が明らかとなり、平成6・7年度に調査されています。両遺跡の西には縄文時代から奈良時代の集落遺跡である岡村遺跡、東には弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である亀川遺跡が所在し、古くから継続的な人々の活動が確認されてきた地域もあります。

今回の調査では、且来V遺跡で古代の瓦や、且来VI遺跡で弥生時代中期の方形周溝墓や古代の掘立柱建物群を検出するなど、新たな成果を得ることができました。

この調査は、秋月海南線道路改良事業に先立って発掘調査を実施したものであり、その成果をまとめ発掘調査報告書として刊行いたします。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の活用に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導・ご協力を賜りました関係各位、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和5年3月10日

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 櫻井敏雄

例　　言

- 1 本書は和歌山県海南市且来に所在する且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、秋月海南線道路改良事業に伴うもので、令和元年度から令和4年度に発掘調査を実施し、令和3年度及び令和4年度に出土遺物整理を実施した。
- 3 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県の委託を受け和歌山県教育委員会指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査・出土遺物等整理業務の調査組織は下記の通りである。
事務局長(管理課長兼務) 井上栄宏(令和元年度・令和2年度)、
平林照浩(令和3年度・令和4年度)
事務局次長 立花佳樹(令和2年度)
埋蔵文化財課長 丹野拓(令和元年度・令和2年度)、
高橋智也(令和3年度・令和4年度)
発掘調査 濱崎範子(令和元年度～令和3年度)、
田之上裕子(令和2年度・令和4年度)、
川崎雅史(令和4年度)
出土遺物等整理業務 濱崎範子(令和3年度・令和4年度)
- 5 本書の編集・執筆、遺構及び遺物写真の撮影は濱崎が行った。
- 6 出土遺物整理に際し、下記の関係諸機関・諸氏よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表す。(氏名五十音順・敬称略)
海南市教育委員会
田中元浩(和歌山県立紀伊風土記の丘)、丹野拓(和歌山県教育委員会)
- 6 本事業の遂行にあたり、地元自治会、地域住民の方々から多大なご協力を頂いた。ここにあらためて感謝の意を表す。
- 7 出土遺物は和歌山県教育委員会が保管し、発掘調査及び出土遺物等整理業務において作成した実測図やデジタルデータ、台帳及び写真などの記録資料は公益財団法人和歌山県文化財センターが保管している。

凡　　例

- 1 遺構等の土層について記載した土色及び出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所監修『新版標準土色帖』(2016年版)に基づいて記録した。
- 2 発掘調査及び出土遺物等整理作業は、「財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル(基礎編)」(2006. 4)に準拠して行った。
- 3 調査ならびに本書で使用した座標値は、平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)第VI系のもので、値はm単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位(T.P+)の数値である。
- 4 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲している。遺構番号は調査区ごとに1からの通し番号である。ただし令和2年度に実施した且来VI遺跡のみ各調査区ごとに4桁の数字を用いており、調査区・遺構面ごとに通しの遺構番号としている。
- 5 遺物図版の縮尺は、原則として1/4とし、石器類に関しては1/2とした。また、遺物写真的縮尺については特に統一していない。
- 6 調査で使用した調査コードは、「調査年度下2桁-市町村コード・遺跡番号」で以下の通りである。出土遺物・記録類はこの調査コードを用い、管理している。
令和元年度(2019年) 且来V遺跡 19-02・050
令和2年度(2020年) 且来VI遺跡 20-02・056
令和3年度(2021年) 且来V遺跡及び且来VI遺跡 21-02・050, 056
令和4年度(2022年) 且来V遺跡及び且来VI遺跡 22-02・050, 056

目 次

本文目次

第1章 遺跡の位置と環境	1	第5章 且来VI遺跡の発掘調査成果	16
第1節 地理的環境	1	第1節 調査の概要	16
第2節 歴史的環境	2	第2節 基本層序	16
第3節 既往の調査成果	2	第3節 弥生時代中期から 古墳時代前期の遺構と遺物	19
第2章 調査の経緯と経過	4	第4節 包含層等から出土した 弥生時代中期から 古墳時代前期の遺物	20
第1節 調査の経緯	4	第5節 古墳時代後期から古代の遺構と遺物	20
第2節 調査の経過	4	第6節 包含層等から出土した 古墳時代後期から古代の遺物	34
第3節 出土遺物等整理業務	7	第7節 中世以降の遺構と遺物	35
第3章 調査の方法	7	第8節 包含層等から出土した中世以降の遺物	37
第1節 記録作業	7	第9節 1－3区の遺構と遺物	38
第2節 地区割	7	第10節 包含層等から出土した1－3区の遺物	39
第4章 且来V遺跡の発掘調査成果	8	第11節 まとめ	39
第1節 調査の概要	8		
第2節 基本層序	8		
第3節 古墳時代後期から古代の遺構と遺物	9		
第4節 包含層等から出土した遺物	15		
第5節 まとめ	15		

挿図目次

図1 且来V遺跡・且来VI遺跡周辺の遺跡
図2 且来V遺跡・且来VI遺跡の既往調査位置
図3 且来V遺跡・且来VI遺跡調査区位置図
図4 且来V遺跡の基本層序模式図
図5 且来V遺跡の遺構配置図
図6 古墳時代後期から古代の遺構（土坑）
図7 古墳時代後期から古代の遺構（構）
図8 古墳時代後期から古代の遺構（柱穴）
図9 遺構出土遺物
図10 遺物包含層出土の弥生時代から古代の遺物
図11 遺物包含層等出土の中世以降の遺物
図12 且来VI遺跡基本層序模式図
図13 且来VI遺跡の遺構配置図
図14 弥生時代から古墳時代前期の遺構（2206方形周溝墓・2205溝）
図15 2206方形周溝墓出土遺物
図16 弥生時代から古墳時代前期の遺構（溝）
図17 弥生時代から古墳時代前期の遺構出土遺物（溝）

図18 遺物包含層出土の弥生時代から古墳時代前期の 遺物（1）
図19 遺物包含層出土の弥生時代から古墳時代前期の 遺物（2）
図20 1掘立柱建物
図21 2・3掘立柱建物
図22 4掘立柱建物・掘立柱建物出土遺物
図23 5・6掘立柱建物
図24 古墳時代後期から古代の遺構（土坑）
図25 古墳時代後期から古代の出土遺物（土坑）
図26 古墳時代後期から古代の遺構（溝）
図27 古墳時代後期から古代の遺構（溝・柱穴）
図28 古墳時代後期から古代の遺構（溝・その他の遺構）
図29 古墳時代後期から古代の出土遺物（溝・その他の遺構）
図30 遺物包含層出土の古墳時代後期から古代の遺物
図31 中世以降遺構と遺構出土遺物
図32 遺物包含層等出土の中世以降の遺物
図33 1－3区遺構配置図
図34 中世の遺構と遺物
図35 遺物包含層出土の遺物

表目次

表1 既往調査一覧	3
表2 且来V遺跡・且來VI遺跡出土遺物観察表（土器・土製品）	40
表3 且来V遺跡・且來VI遺跡出土遺物観察表（石製品）	48

写真図版目次

卷頭カラー	1 2206 方形周溝墓出土状況（東から）	6 4 振立柱建物 2021 柱穴土層断面（北から）
	2 2206 方形周溝墓完掘状況（北から）	7 4 振立柱建物 2059 柱穴土層断面（北から）
	3 2206 方形周溝墓出土夯生土器長頸壺（48）	8 5 振立柱建物 2013 柱穴土層断面（東から）
写真図版1	1 且来V遺跡調査前（北から）	写真図版10 1 1113 土坑土層断面（北から）
	2 且来V遺跡1区完掘状況（北から）	2 1113 土坑完掘（南から）
	3 且来V遺跡2区完掘状況（北から）	3 1145 土坑遺物出土状況（西から）
写真図版2	1 1土坑遺物出土状況（北から）	写真図版11 1 1145 土坑土層断面（西から）
	2 1土坑土層断面（東から）	2 1154 土坑土層断面（西から）
	3 2土坑遺物出土状況（東から）	3 1154 土坑完掘（西から）
写真図版3	1 2土坑土層断面（東から）	写真図版12 1 2152 土坑土層断面（北から）
	2 3・4土坑土層断面（東から）	2 2189 土坑土層断面（北から）
	3 27 土坑土層断面（東から）	3 3102 土坑土層断面（東から）
写真図版4	1 R3-2・3 3土坑土層断面（西から）	写真図版13 1 1201・1202 溝サブトレンチ土層断面（東から）
	2 52 漢土層断面（西から）	2 1201・1202 漢完掘状況（北から）
	3 170 漢全量（北から）	3 2136 漢土層断面（北から）
写真図版5	1 170 漢土層断面（南から）	写真図版14 1 2168 漢土層断面（東から）
	2 9 柱穴土層断面（西から）	2 2136 漢完掘状況（北から）
	3 12 柱穴土層断面（北西から）	3 5108 漢土層断面（西から）
写真図版6	1 11 柱穴土層断面（東から）	写真図版15 1 2035 柱穴土層断面（西から）
	2 14 柱穴土層断面（東から）	2 2036 柱穴土層断面（西から）
	3 大規模整地痕跡（西から）	3 3121 落ち状遺構土層断面（北から）
写真図版7	1 2206 方形周溝墓土層断面（東から）	写真図版16 1 3121 落ち状遺構完掘状況（北から）
	2 2201・2204 漢土層断面（北から）	2 3180 土坑土層断面（東から）
	3 2201・2204 漢完掘状況（北西から）	3 3185 土坑土層断面（西から）
写真図版8	1 1 振立柱建物 南側柱穴列（西から）	写真図版17 1 1301 漢東壁土層断面（西から）
	2 1振立柱建物 1232 柱穴土層断面（北から）	2 1301 漢完掘状況（東から）
	3 1振立柱建物 1107 柱穴土層断面（西から）	写真図版18 出土遺物 1
	4 1振立柱建物 1230 柱穴土層断面（北から）	写真図版19 出土遺物 2
	5 1振立柱建物 1231 柱穴土層断面（北から）	写真図版20 出土遺物 3
	6 1振立柱建物 1237 柱穴土層断面（北から）	写真図版21 出土遺物 4
	7 1振立柱建物 2123 柱穴土層断面（西から）	写真図版22 出土遺物 5
	8 2振立柱建物 2191a・b 柱穴土層断面（西から）	写真図版23 出土遺物 6
写真図版9	1 2 振立柱建物 1223 柱穴土層断面（西から）	写真図版24 出土遺物 7
	2 2振立柱建物 2030 柱穴土層断面（東から）	写真図版25 出土遺物 8
	3 2振立柱建物 2122 柱穴土層断面（東から）	写真図版26 出土遺物 9
	4 3振立柱建物 2133 柱穴土層断面（南東から）	写真図版27 出土遺物 10
	5 3振立柱建物 2515（左）・2514（中）・ 2516（右） 柱穴土層断面（西から）	写真図版28 出土遺物 11

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

海南市は、和歌山県の北西部に位置し、北は和歌山市、紀の川市、東は海草郡紀美野町、南は有田市と有田郡有田川町と接している。市域の北側には長峰山脈・黒沢山を源流とする亀の川、南側には鯛ノ峰・鏡石山を源流とする日方川が西流し、和歌浦湾に注ぎ込む。各々、河川

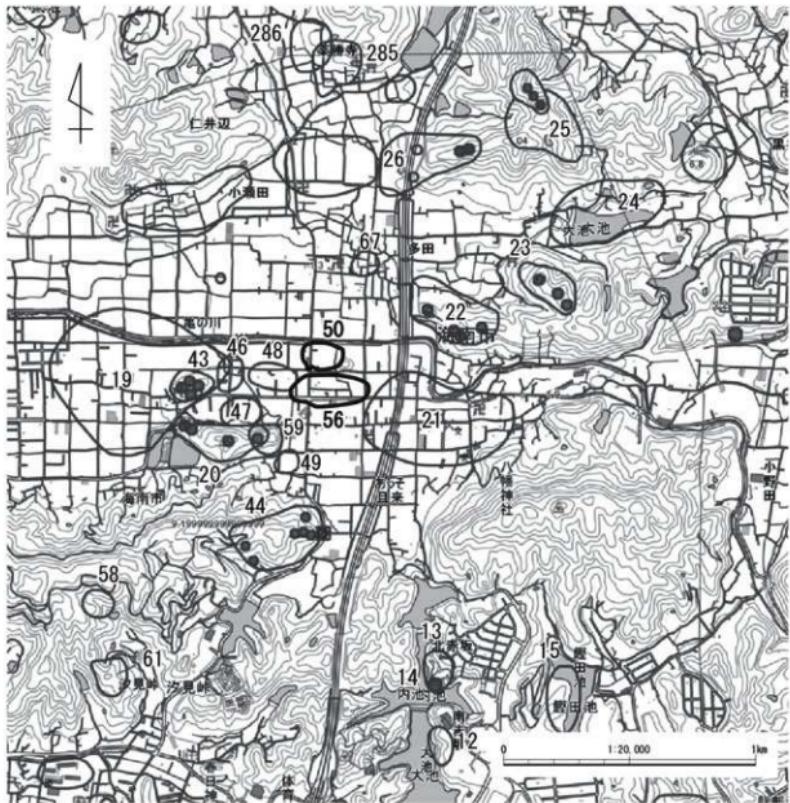


図1 且来Ⅴ遺跡・且来Ⅵ遺跡周辺の遺跡

和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図

【和歌山市】285 葉勝寺跡 286 葉勝寺遺跡

【海南市】14 内池窯跡 15 綾田池遺跡 19 岡村遺跡 20 岡村古墳群 21 亀川遺跡 22 多田南山古墳群 23 国主神社古墳群 24 多田東遺跡 25 流ヶ峰遺跡 26 葉勝寺南山古墳群 43 岡田八幡神社古墳群 44 且来下垣内古墳群 46 且来I遺跡 47 且来II遺跡 48 且来III遺跡 49 且来IV遺跡 50 且来V遺跡 56 且来VI遺跡 58 扇子ヶ城跡 59 且来城跡 61 神田城跡

下流域で狭い沖積平野を形成する。

且来V遺跡及び且来VI遺跡（図1、50・56）は、海南市且来に所在する遺跡であり、いずれも亀の川の流れによって形成された扇状地上に位置する。埋蔵文化財包蔵地範囲（『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』2007年以後、随時更新（以下、埋蔵文化財包蔵地図とする。））によると、且来V遺跡は東西約180m、南北約100m、且来VI遺跡は東西約320m、南北約140mである。周辺の埋蔵文化財包蔵地は、且来I～V遺跡（46～50）と且来VI遺跡（56）に区分されているが、本来は東側の亀川遺跡（21）と西側の岡村遺跡（19・395）の間に展開する一体的な遺跡と考えられる。

第2節 歴史的環境

且来V遺跡及び且来VI遺跡の周辺には、比較的多くの遺跡が存在する。また、且来V遺跡、且来VI遺跡を南北に縦貫する現行の県道秋月海南線の約220m東に位置する南北に延びる道路は、古来よりの熊野参詣道を踏襲したものと考えられ、さらに且来VI遺跡の南側では、東西に延びる県道小野田内原線との交点となっており、古くから交通の要衝であったことがうかがえる。

且来V遺跡及びVI遺跡の周辺では、縄文時代後期から且来I遺跡、且来III遺跡、亀川遺跡、岡村遺跡等において活発に遺跡が展開する。引き続いて、亀川遺跡、岡村遺跡等において弥生時代前期から古墳時代前期にかけての集落が展開する。古墳時代に入ると、且来VI遺跡の周辺には、岡村古墳群（20）、岡田八幡神社古墳群（43）などが形成されるようになる。また且来V遺跡及び且来VI遺跡から南東約1.3kmの地点に所在する内池窯跡（14）は古墳時代から古代の須恵器窯跡であり、周辺の遺跡で出土した須恵器の供給地点の一つと考えられる。

古代以降は、遺跡の北に位置する薬勝寺跡（285）があり、表採された軒丸瓦や軒平瓦から伊都郡かつらぎ町所在の佐野庵寺との関連性が指摘されている。この薬勝寺跡は、9世紀初頭に薬師寺に属する僧であった景戒が撰述したとされる『日本国現報善惡靈異記』中巻第32「寺の息利の酒をおきのり用ひて、債はずして死に、牛と作りて役はれ、債を償ひし縁」に記述される薬勝寺と考えられており、同話はこの且来周辺を舞台とした話と考えられる。『薬王寺文書』には、平安時代後期の且来周辺の条里型地割にまつわる地名が記載されており、現在の平野部にみられる正方位の条里型地割は平安時代後期以降のものと考えられる。江戸時代中期には遺跡の北を東西方向に流れる亀の川の付け替えが行われており、現在の流れとなっている。

第3節 既往の調査成果

【且来V遺跡】 平成2年度、令和2年度

海南市教育委員会及び海南市文化財調査研究会により2度の発掘調査が実施されている。遺跡北部を流れる亀の川の氾濫の影響を大きく受けているが、古代から中世の溝、土坑等を確認している。遺構に伴わないものの、弥生時代の石包丁や県下においても30例ほどしか出土例のない古代の円面硯が出土している。

【且来VI遺跡】海南市教育委員会及び海南市文化財調査研究会によって1次～20次の調査が行われている。県道小野田内原線道路改良工事に伴い且来VI遺跡が発見（緊急発掘調査）された際は、海南市文化財調査研究会が発掘調査を実施しており、面積約621m²（東西約113m、幅5.5m）を発掘調査している。平成6・7年度には、平成3年度に実施した調査区の東側延長を県道小野

表1 既往調査一覧

調査名	調査年度	調査地点	記載報告書
1次調査	平成4年	且来VI遺跡発掘調査概報－篠野小野田内原線道路改良工事にともなう発掘調査－』	
2次調査	平成4年	A地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成4年度－』
3次調査	平成4年	B地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成4年度－』
4次調査	平成4年	C地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成4年度－』
5次調査	平成5年		『海南市内遺跡発掘調査概報－平成5年度－』
6次調査	平成6年	確認	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成6年度－』
7次調査	平成6年	E地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成6年度－』
8次調査	平成6年・7年		『且来VI遺跡発掘調査概報－篠野小野田内原線道路改良工事にともなう発掘調査報告書－』
9次調査	平成7年	A地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成7年度－』
10次調査	平成7年	B地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成7年度－』
11次調査	平成7年	C地点	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成7年度－』
12次調査	平成8年		『海南市内遺跡発掘調査概報－平成8年度－』
13次調査	平成19年		『海南市内遺跡発掘調査概報－平成18年度－』
14次調査	平成22年	且来VI 10-1	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成22年度－』
15次調査	平成22年	且来VI 10-2	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成22年度－』
16次調査	平成23年	且来VI 11-1	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』
17次調査	平成23年	且来VI 11-2	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』
18次調査	平成23年	且来VI 11-3	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』
19次調査	平成23年	且来VI 11-4	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』
20次調査	平成23年	且来VI 11-5	『海南市内遺跡発掘調査概報－平成23年度－』

田内原線道路改良工事に伴い海南市文化財調査研究会が発掘調査している。調査区の面積は約840m²、総延長は約130mである。この既往調査と合わせて飛鳥時代から奈良時代とみられる土坑や掘立柱建物群を検出したほか弥生時代中期とみられる溝を検出しているが明確に弥生時代と言える遺構は極めて少ない。一方で出土した遺物は古代の土器のほか弥生土器も多く含まれていた。

このほか主だった且来VI遺跡の確認調査等については図2及び表1にまとめている。



図2 且来V遺跡・且来VI遺跡の既往調査位置

この地図は、海南市長の承認を得て、同市所管の測量成果海南市国土地本図(1/2500)DMデータを使用して調製したものです。
(承認番号令和4年6月16日 海都第124号)
※表1及び図2は海南市教育委員会提供のものに加筆した。

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

調査は和歌山県により県道秋月海南線道路改良事業が計画され、事業予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である「且来V遺跡」及び「且来VI遺跡」内に位置していたことに起因する。

このことにより、平成30年4月9日付け海建海工第04090003号で和歌山県知事より、和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）へ文化財保護法第94条第1項の規定に基づく通知がおこなわれ、これに対し、平成30年4月17日付け文第04050002号の（3）で確認調査を必要とする旨の通知を県教育委員会が行った。

これを受け、且来V遺跡内の事業予定地について令和元年6月7日付け海建海工第06070002号で和歌山県知事より県教育委員会に確認調査の依頼があり、令和元年6月12日付け文第04150005号で県教育委員会がこれを受諾し、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課（以下、「県文化遺産課」という。）による県道秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡試掘確認調査が2箇所計約20m²の範囲で令和元年9月5日及び6日の2日間に実施された。

且来VI遺跡内の事業予定地においても同様に、令和2年7月15日付け海建海工第07150001号で和歌山県知事より県教育委員会に発掘調査の依頼があり、令和2年7月22日付け文第04140003号の8で県教育委員会がこれを受諾し、県文化遺産課により県道秋月海南線道路改良事業に伴う且来VI遺跡試掘確認調査として実施された。確認調査は、4箇所計約23m²の範囲で令和2年8月5日及び6日の2日間に実施された。

各確認調査の結果、且来V遺跡及び且来VI遺跡範囲内に位置する事業予定地について埋蔵文化財が展開することが明らかとなった。このため、県教育委員会の指導のもと、公益財團法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が本発掘調査を受託することとなった。

令和元年度に且来V遺跡内の事業予定地を「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡発掘調査業務」として、また令和2年度に且来VI遺跡内の事業予定地を「秋月海南線道路改良事業に伴う且来VI遺跡発掘調査業務」として和歌山県より受託した。また、令和3年度及び4年度には当センターが発掘調査を実施した東側隣接地において既設側溝の取壊し工事に伴う発掘調査を出土品等整理業務と合わせて「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡及び且来VI遺跡発掘調査等業務」として和歌山県より受託し、実施した。

第2節 調査の経過

【令和元年度 且来V遺跡】

且来V遺跡については、令和元年10月15日付け海建海工第10150005号で和歌山県より県教育委員会に且来V遺跡発掘調査の依頼があり、令和元年12月25日付け文第12250001号により県教育委員会から当センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があつたため、令和2年1月9日付け和文セ第300号で実施計画書を県教育委員会に提出した。

これを受けて、令和2年1月9日付け文第12250001号の2で県教育委員会より委託契約を締結するよう依頼があり、令和2年1月9日付けで県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡発掘調査業務」の契約を締結した。

契約期間は令和2年3月23日までである。発掘調査の途中で、記録保存すべき遺構面が確認調査時より下層に存在したことなどから発掘調査期間の延長等に伴い令和2年3月18日に契約変更を行った。調査対象面積は155.0m²である。

発掘調査工事は、道路改良事業を受託していた品川水道工業株式会社が委託者である和歌山県（海草振興局建設部）より請け負って実施した。

令和2年2月3日より現地での作業を開始した。県文化遺産課による確認調査成果に基づき、造成土及び現在の水田耕作土・床土までを機械掘削とし、それ以下について人力掘削とした。調査対象地の遺構面は1面であるが、1区南端から2区北半部にかけ、部分的に2面存在することが判明した。調査では、全て手測りにて平・断面実測図を作成した。1区・2区ともに調査記録作業終了後埋め戻しを行い、令和2年3月6日に現地での調査を終了した。

【令和2年度 且来VI遺跡】

且来VI遺跡については、令和2年10月5日付け海建海工第07150001号で和歌山県より県教育委員会に且来VI遺跡発掘調査の依頼があり、令和2年10月5日付け文第10050003号により県教育委員会から当センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があったため、令和2年10月5日付け和文セ第183号で実施計画書を県教育委員会に提出した。

これを受けて、令和2年10月5日付け文第10050003号の2で県教育委員会より委託契約を締結するよう依頼があり、令和2年10月5日付けで県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで「秋月海南線道路改良事業に伴う且来VI遺跡発掘調査業務」の契約を締結した。契約期間は令和3年3月24日までである。

発掘調査に伴う工事は「秋月海南線道路改良事業に伴う且来VI遺跡調査工事」として、ユートピア建設に当センターより再委託し、令和2年11月4日から令和3年3月5日までの工期で実施した。調査地は、且来VI遺跡中央部からやや西寄りの地点であり、当初の調査面積は485.0m²であったが、調査地の状況を確認したところ、安全管理上の観点から県道に面している調査区東側について現況より0.3～0.5m程度の控えを設定したこと、また4区と5区の間において、調査地に隣接する店舗が使用している排水管が埋設されていることが判明したため、これらの部分を除き、418.1m²の調査を行った。現地調査は、令和2年11月16日に開始し、令和3年3月5日で終了した。調査期間中の令和3年2月24日に現地公開を実施したところ近隣住民を中心に20名の方に参加いただいた。

調査対象地の遺構面は2面であり、調査ではすべて手測りにて平・断面実測図を作成した。調



写真1 遺構掘削（令和2年度）



写真2 現地公開

査は、調査区に隣接する営業中店舗に配慮し、また、排土置き場を確保するため、各調査区ごとに反転方式で行い、作業を並行できる調査区については同時に実施した。

【令和3年度 且来V遺跡及びVI遺跡】

且来V遺跡及び且来VI遺跡について、令和3年7月15日付け海建海工第07150001号で和歌山県より県教育委員会に発掘調査の依頼があり、令和3年7月27日付け文第07260002号により県教育委員会から当センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があったため、令和3年9月1日付け和文セ第176号で実施計画書を県教育委員会に提出した。

これを受け、令和3年9月1日付け文第07260004号の2で県教育委員会より委託契約を締結するよう依頼があり、令和3年9月13日付けで県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡及び且来VI遺跡発掘調査等業務」の契約を締結した。令和3年12月8日付け海建海工第12080001号で令和元年度及び令和3年度に実施した且来V遺跡出土遺物等整理業務の一部業務を加える依頼が和歌山県よりあり、県教育委員会から令和3年12月8日付け文第07260002号の3で変更実施計画書の提出依頼があったため、令和3年12月24日付け和文セ第274号で変更実施計画書を県教育委員会に提出した。これを受け令和3年12月27日付け文第07260004号の2で県教育委員会より変更契約を締結するよう依頼があり、令和3年12月27日付けで県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで業務名を「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡及び且来VI遺跡発掘調査等業務」と変えて変更契約を締結した。契約期間は令和4年2月28日までである。発掘調査工事は、道路改良事業を受託していた神出建設企業株式会社が委託者である和歌山県（海草振興局建設部）より請け負って実施した。

【令和4年度 且来V遺跡及びVI遺跡】

且来V遺跡及び且来VI遺跡について、令和4年3月23日付け海建海工第03230001号で和歌山県より県教育委員会に発掘調査及び出土遺物等整理の依頼があり、令和4年3月23日付け文第03230008号により県教育委員会から当センターに発掘調査業務の実施計画書の提出依頼があったため、令和4年3月31日付け和文セ第428号で実施計画書を県教育委員会に提出した。

これを受け、令和4年4月1日付け文第04010005号で県教育委員会より委託契約を締結するよう依頼があり、令和4年4月13日付けで県教育委員会の指導のもと、和歌山県と当センターとで「秋月海南線道路改良事業に伴う且来V遺跡及び且来VI遺跡発掘調査等業務」の契約を締結した。契約期間は令和5年3月10日までである。発掘調査工事は、道路改良事業を受託していた神出建設建設株式会社が委託者である和歌山県（海草振興局建設部）より請け負って実施した。



写真3 遺物実測



写真4 デジタルトレース

第3節 出土遺物等整理業務

当センターが令和元年度から令和4年度にかけ実施した且来V遺跡及び且来VI遺跡の発掘調査で出土した出土遺物について、令和3年度に且来V遺跡出土遺物を、令和4年度に且来VI遺跡出土遺物を中心として整理業務を実施し、発掘調査報告書を刊行した。

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は発掘調査で出土した遺物全点を対象に行った。遺物の登録・注記・接合・補強・復元・実測等の一連の作業を行うとともに遺構実測図の調整を行い、遺物実測図と共にデジタルトレース作業を実施し、これらを組版して図面原稿を作成した。また現場で撮影した遺構写真等について整理を行い、報告書に掲載する遺物写真を撮影とともに主要な遺構写真とともに組版を行い写真図版を作成した。

また、遺物観察表を作成するとともに一連の作業を踏まえて原稿執筆を行った。

業務は令和4年4月から実施し、一時中断を挟んだが令和5年3月に本書を刊行するに至った。

参考文献

『海南市史 第1巻通史編』1994 海南市

『且来VI遺跡－県道小野田内原線道路改良工事にともなう発掘調査報告書－－平成7年度－』1995 海南市文化財調査研究会
『亀井川遺跡V』1985 海南市文化財調査研究会

第3章 調査の方法

第1節 記録作業

発掘調査は「(財) 和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル(基礎編)」2006年4月に基づき、実施した。既往調査や県教育委員会の確認調査で遺物包含層と確認された土層以下については人力で掘削を行った。

調査区の平・断面図及び遺構断面土層図については、調査担当者が測量・図化し、全て縮尺1/20で作成した。写真撮影については35mmフルサイズデジタルカメラを使用して調査担当者が撮影した。デジタルカメラのデータはRAW形式及びJPEG形式で保存し、調査終了後にデジタル現像を経てTIFF形式に変換し、保存した。



図3 且来V遺跡・且来VI遺跡調査区位置図

第2節 地区割

調査区の地区割は平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)を使用した。本来であれば当センターの地区割に従い、大区画・小区画を設定しなければならないが、且来V遺跡及び且来VI遺跡は交通量の多い県道に隣接し、また一部調査区を除いて調査区が非常に狭小であつたことから大区画一小区画を設定せず任意の調査区画を設定した。調査終了後に各調査区を座標上に埋め込み、調査位置図を作成した。

第4章 且来V遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の概要

令和元年度の調査区は排土置き場を確保するため北半部の1区と南半部の2区に分かれ、順次調査を行った。遺構番号は1、2区を通して1から順に記録している。令和3年度及び令和4年度の調査区内の遺構の中には令和元年度の調査区で検出した遺構の延長であるものもあるが、新たに1から順に記録している。今回は各年度の調査区を分けずに時代を追って説明する。

検出した遺構には古墳時代後期から古代のものがあり、出土した遺物には弥生土器や古墳時代から古代、中世の遺物がある。

第2節 基本層序

且来V遺跡の基本層序を第1層から第5層に区分した。各土層は概ね水平に堆積しているが、調査区南端部では急激に旧地形が落ち込んでいる。

第1層は現況の道路造成土、第2層は造成前の水田耕作土とその床土である。第3層は中世から近世の水田耕作土層である。概ね水平堆積であり、近世以前の水田耕作土・床土と考えられ、瓦器梶片などを含む遺物包含層でもある。調査区南半で確認した第3-1層と調査区北部から中央部で確認した3-2層に細分でき、土層の堆積状況から大規模な整地作業があったことが分かる。第4層は黄褐色からオリーブ褐色を呈し、シルトを含む砂層で、弥生時代から古代の遺物を中心とするが中世の遺物を若干含む遺物包含層である。土質の違いから第4-1層から第4-3層に細分でき、検出した遺構には遺構面となる第5層よりも上部から掘り込まれるもののが確認されており、本来は古代以降の遺構面が存在していたと考えられる。しかし河川の氾濫及び後世の開発行為に伴い削平され、部分的にしか遺存しなかったとみられる。第5層は灰黄褐色から灰色を呈する中粒砂から粗砂で構成され、調査区北側では円礫を大量に含むが調査区中央部以南で急激に下がり、シルトを多量に含むようになるため調査区南端は低湿地帶

であったと推測できる。今回検出した遺構のほとんどはこの第5層上面から掘り込まれている。これ以下に遺構・遺物は確認できないことから基盤層と考えられる。また第5層は調査区北部から中央部では円礫を多量に含むことから調査区北側を流れる亀の川の氾濫堆積層と考えられる。

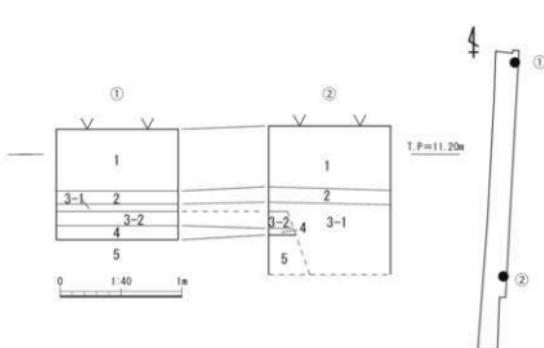


図4 且来V遺跡の基本層序模式図

第3節 古墳時代後期から古代の遺構と遺物

【土坑】

1 土坑（図6・9、写真図版2・18）1区で検出した土坑で、平面形状は楕円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.48m、深さ0.06m、断面は歪な逆三角形を呈している。出土遺物は須恵器坏身（1）、丸瓦（2）のほか土師器、須恵器があり、古代の遺構とみられる。

2 土坑

1区で検出した土坑で、平面形状はやや隅丸長方形を呈している。長辺0.92m、短辺0.58m、深さ0.06m、断面は歪な台形を呈している。出土遺物は土師器壺（3）、土師器皿（4）、土師器、須恵器などがあり、古代の遺構とみられる。

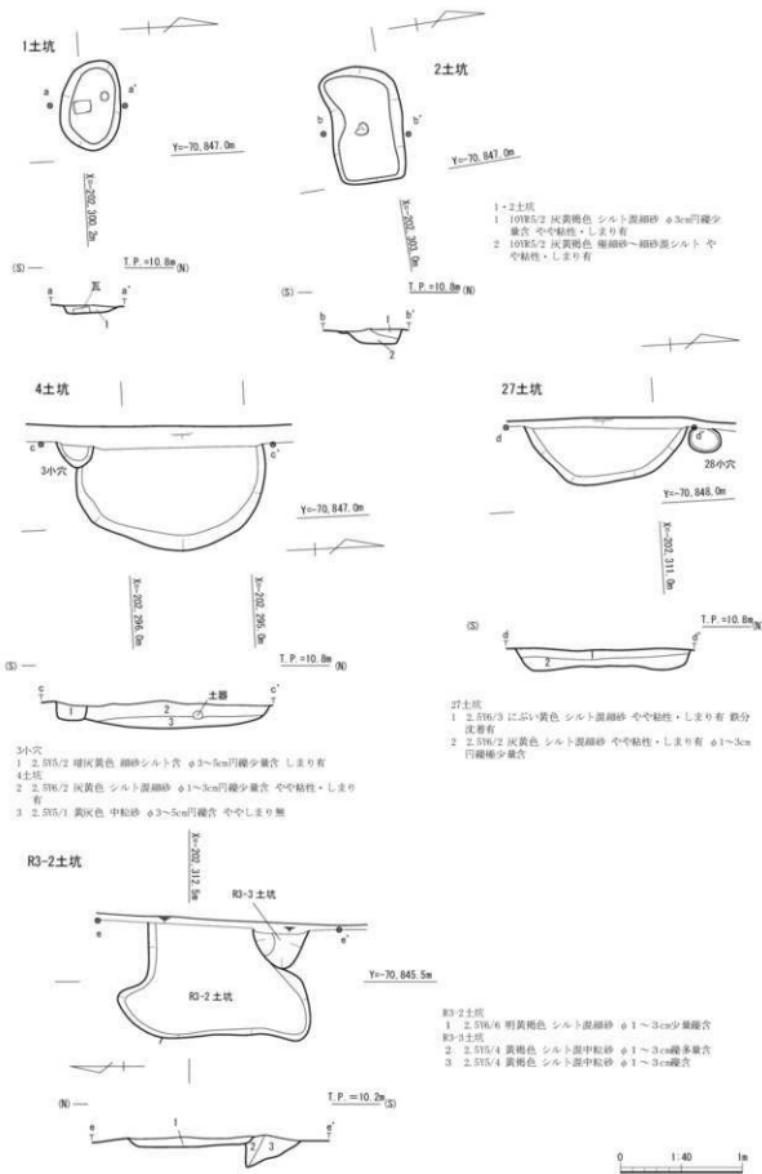
4 土坑（図6・9、写真図版3・18）1区で検出した土坑で、調査区外西側へ更に広がる。平面形状は楕円形を呈し、検出長軸1.56m、検出短軸0.84m、深さ0.60m。断面は浅い船底形を呈している。埋土は上下2層に分かれ、いずれも小縫を含む。遺構の規模と土師器高坏の脚部や土師器壺が出土することから古墳時代後期から古代にかけての土塚墓の可能性が考えられる。出土遺物は土師器高坏（5）、土師器壺（6）、須恵器などがある。

27 土坑（図6・9、写真図版3・18）1区南部で検出した土坑で、調査区外西側へ更に広がる。平面形状は楕円形を呈し、検出長軸1.34m、短軸0.44m、深さ0.20m、断面は不整形な船底形を呈している。出土遺物は土師器壺（7）、須恵器片などがあり、古墳時代後期から古代の遺構とみられる。



図5 且来V遺跡の遺構配置図

R3-2 土坑（図6、写真図版4） 令和3年度調査区の北端で検出した土坑で、平面形状は不整形な円形を呈し、一部は調査区外東に続く。長軸1.6m、短軸0.88m、深さ0.08mで断面は台形を呈している。出土遺物は土師器片がある。古墳時代後期から古代の遺構とみられる。



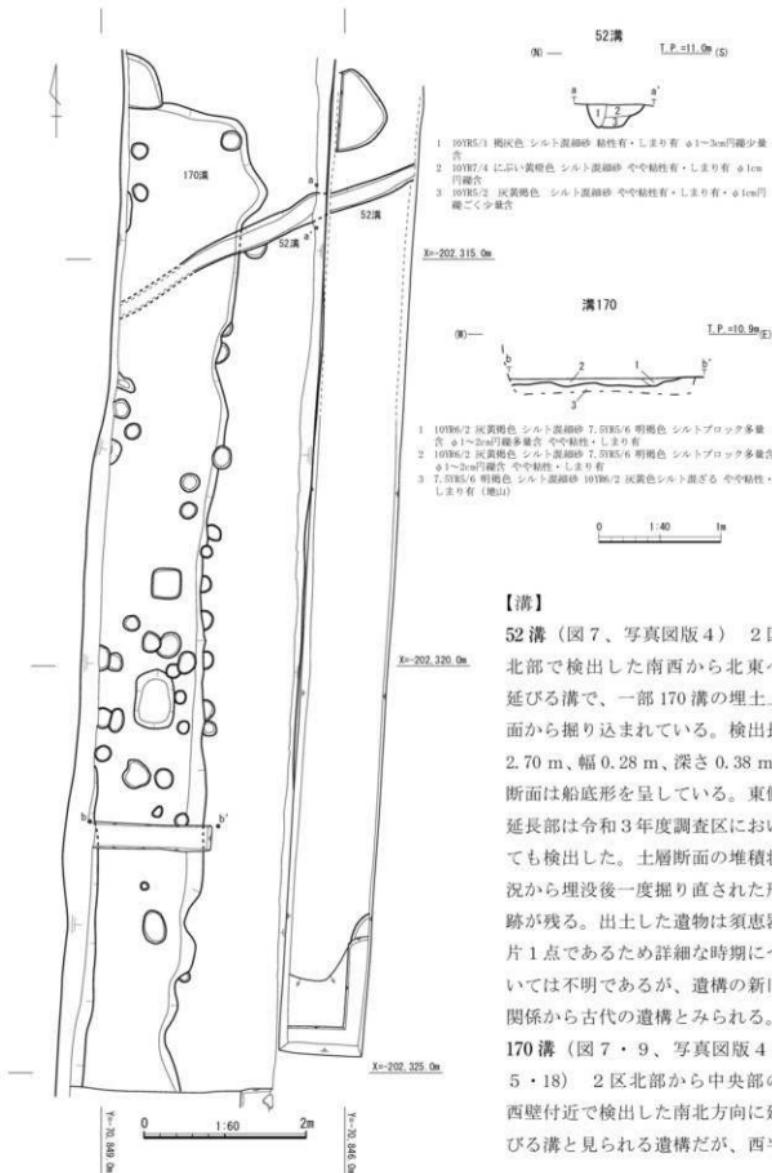


図7 古墳時代後期から古代の遺構（溝）

【溝】

52溝（図7、写真図版4）2区北部で検出した南西から北東へ延びる溝で、一部170溝の埋土上面から掘り込まれている。検出長2.70m、幅0.28m、深さ0.38m、断面は船底形を呈している。東側延長部は令和3年度調査区においても検出した。土層断面の堆積状況から埋没後一度掘り直された形跡が残る。出土した遺物は須恵器片1点であるため詳細な時期については不明であるが、遺構の新旧関係から古代の遺構とみられる。

170溝（図7・9、写真図版4・5・18）2区北部から中央部の西壁付近で検出した南北方向に延びる溝と見られる遺構だが、西半

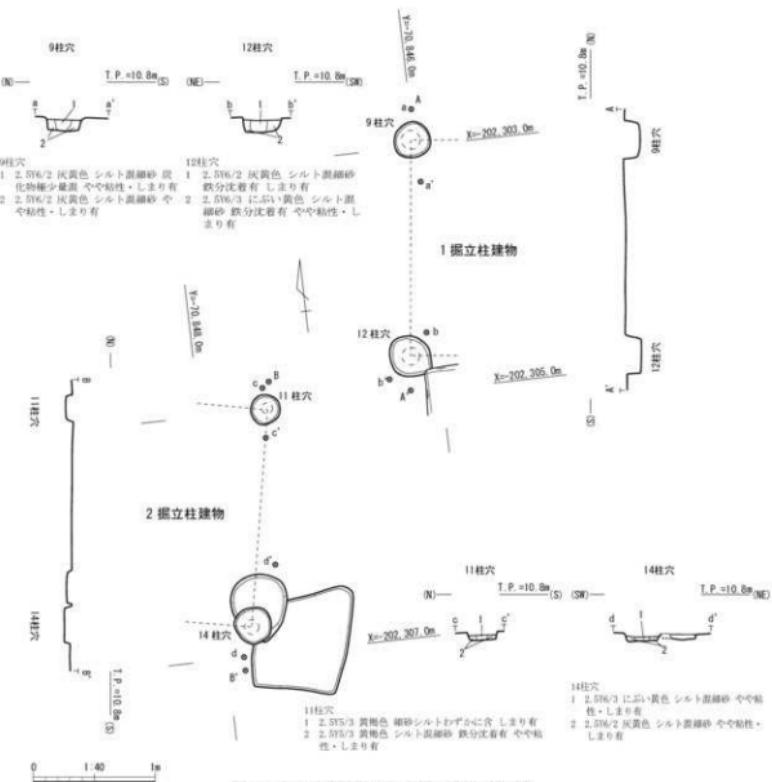


図8 古墳時代後期から古代の遺構（柱穴）

部は調査区外西側へ更に広がるため、巨大な土坑や落ち状遺構の可能性も残る。検出長25.0m、検出最大幅1.70m、深さ0.06m、断面はやや歪な台形を呈すると見られ、57溝より古い。また、南半部を後述の大規模な整地痕跡によって削平されている。調査区内の遺構としては比較的多数の遺物が出土しているが多くは摩耗が激しく細片にとどまるため、詳細な遺構の時期は不明だが、出土遺物は須恵器甕（8）のほか土師器及び須恵器があることから古墳時代後期から古代と考える。

【掘立柱建物】

1 掘立柱建物

9柱穴（図8・9、写真図版5・18） 1区南部で検出した柱穴で、平面形状は円形を呈し、径0.30m、深さ0.08m、断面は台形状を呈している。中央に径0.08mの柱根が確認できる。出土遺物は須恵器坏身（9）、土師器などがあり、古墳時代後期から古代の遺構とみられる。

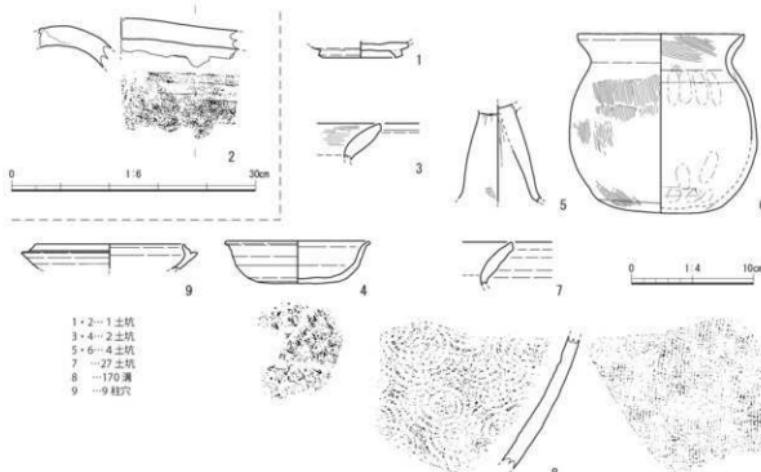


図9 遺構出土遺物

12 柱穴（図8、写真図版5） 1区南部で検出した柱穴で、平面形状は円形を呈し、径0.28m、深さ0.10m、断面は台形状を呈している。中央に径0.10mの柱根が確認できる。出土遺物は土師器片がある。

9柱穴及び12柱穴の柱根間距離が1.78mであり、調査区外東へ広がる1間以上の建物跡の可能性がある。出土遺物から古墳時代後期以降の可能性が高い。

2 掘立柱建物

11 柱穴（図8・写真図版6） 1区南部で検出した柱穴で、平面形状は円形を呈し、径0.26m、深さ0.04m、断面は台形状を呈している。中央に径0.10mの柱根が確認できる。出土遺物は確認できなかった。

14 柱穴（図8・写真図版6） 1区南部で検出した柱穴で、平面形状は円形を呈し、径0.30m、深さ0.04m、断面は長方形状を呈している。柱穴に径0.12mの柱根が確認できる。出土遺物は確認できなかった。

11柱穴及び14柱穴は柱根間距離が1.82mであり、調査区外西へ広がる1間以上の建物跡の可能性がある。出土遺物がないが、9柱穴、12柱穴と同時期となる可能性が高い。

大規模な整地痕跡（写真図版6）

2区中央部から南端にかけてシルトを多く含む第5層が南に向かって急激に落ち込み、調査区南端で見られる第5層はグライ化が進んでいる。このことから、古墳時代から古代には調査地南端部は低湿地帯であったと考えられる。更に今回の調査では、この低湿地帯に多量の土砂を盛土・整地し、水田耕作土としていることが明らかになった。盛土に含まれる遺物が少なく細かな時期の特定は困難だが、弥生時代後期から古代の遺物が含まれており、調査地の包含層

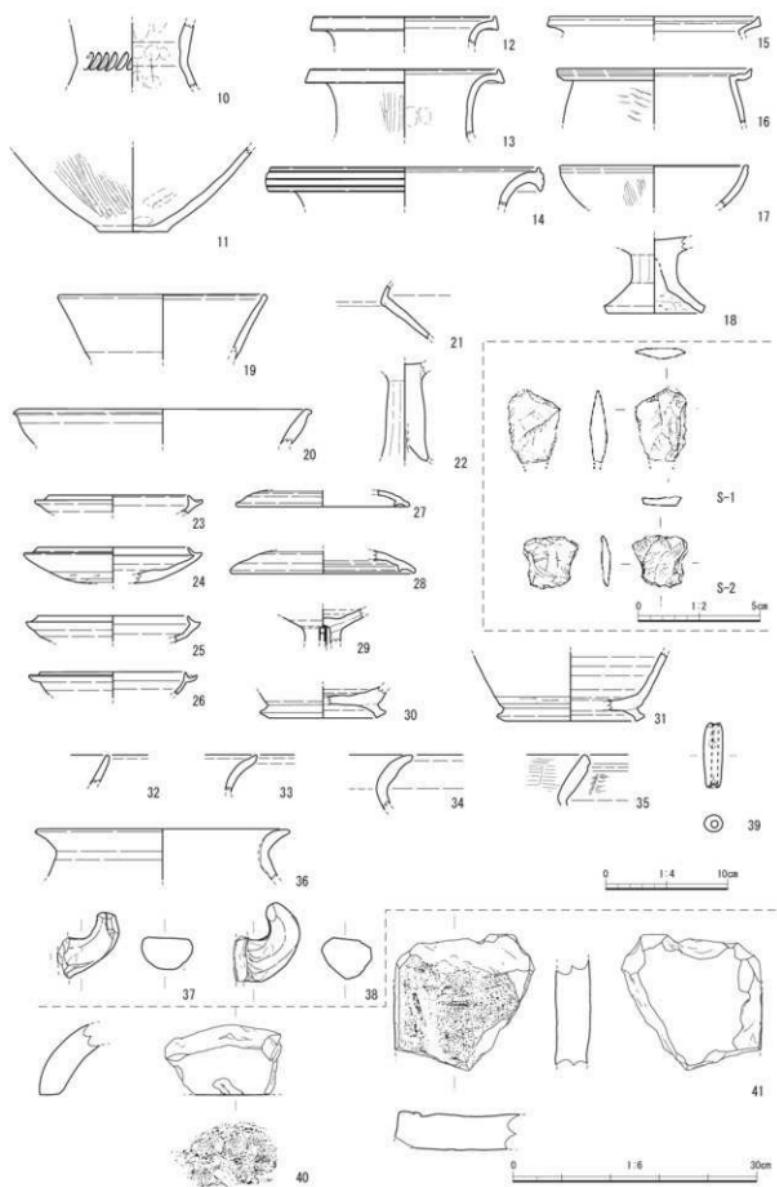


図 10 遺物包含層出土の弥生時代から古代の遺物

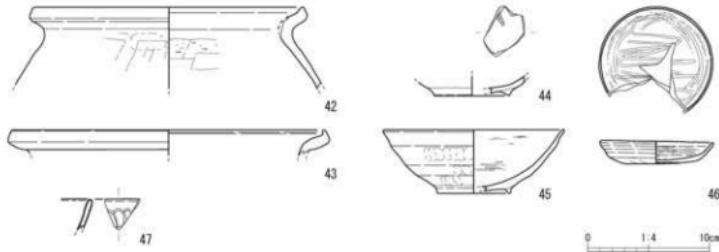


図 11 遺物包含層等出土の中世以降の遺物

出土遺物とほぼ一致するため、周囲の土砂で低湿地帯を埋めた可能性が高く、この大規模な整地は古代末から中世初頭に行われたと推定できる。

第4節 包含層等から出土した遺物（図10・11・写真図版18～20）

包含層及び大規模整地痕跡の土層からは弥生時代中期から室町時代までの遺物が含まれている。主なものとして弥生時代中期の壺（10～14）、甕（15・16）、高坏もしくは塊（17）、高坏（18）、サヌカイト製の石器剥片（S-1、S-2）、古墳時代前期の土師器の壺（19・20）、甕（21）、高坏（22）、古墳時代後期の須恵器坏身（23～26）、高坏（29）、古代の須恵器坏蓋（27・28）、壺（30・31）、古代の土師器甕（32～36）、瓶もしくは鍋の把手（37・38）、土錐（39）、古代の瓦（40・41）である。中世の遺物として土師器土釜（42・43）、瓦器椀（44・45）、皿（46）、中国製青磁碗（47）がある。

第5節まとめ

本調査では、調査区が狭小であるため遺構の広がりを明確に把握することができ困難であるが、土坑・柱穴・小穴、溝等の多くの遺構を検出することができた。また、遺物も弥生時代中期後半から中世にかけての土器が出土している。1、2区とも検出した遺構は深度が0.10 m前後のものが多く、遺構の残存状況は悪い。調査区北側での遺構の分布密度は低い傾向にあるが、遺構面は調査区北側に延びるため且来V遺跡は從来通り調査地北側にも展開するものとみられる。

今回の調査では、弥生時代の遺構と断定できるものはなかった一方で包含層及び遺構埋土からは一定数の弥生時代中期から古墳時代前期の土器が出土している。土層の堆積状況から調査区北側に位置する亀の川の氾濫による影響が考えられ、且来V遺跡に近接する且来VI遺跡や岡村遺跡、亀川遺跡の遺物が混入している可能性が高い。

また、調査区南部の土層堆積状況から且来V遺跡の南端部は古墳時代から古代にかけて湿地帯であった可能性が高い。しかしながら古代末から中世初頭に水田耕作地拡大を目的とした大規模な土地改変が行われていることが明らかになった。『薬王寺文書』に条里に関する地名がみられることから、現在も残る正方位の条里型地割に関連したものであった可能性があることを指摘しておきたい。

第5章 且来VI遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の概要

且来VI遺跡の調査は道路拡幅部分の発掘調査を令和2年度、拡幅前道路のコンクリート製側溝の取壊しに伴う発掘調査は令和3年度並びに令和4年度に実施している。

令和2年度に実施した発掘調査では、1-3区を除き隣接する店舗や住宅に配慮し排土置き場を確保するため、1-1、1-2、2-1、2-2、3、4、5区と狭小な調査区を設定せざるを得なかった。そのため各調査区にまたがる遺構の配置については、調査時に十分な検討を行えなかつたが、出土遺物や記録類の検討から基本層序を踏まえて1-3区を除く1から5区と、1-3区、という2つに分けてそれぞれ時代を追って説明する。

調査時における遺構番号については、各調査区ごとに4桁の数字を用いて管理しており、本報告においても調査時の遺構番号を使用して報告する。また調査後に行った整理作業のなかで新たに構造物として認識したものについては「1掘立柱建物」と遺構番号とは別に遺構内容を標記して説明している。

第2節 基本層序

且来VI遺跡の基本層序については1-3区とそれ以外の調査区において基盤層以外は異なる様相をしている。1-3区については3時期の遺構面が存在することが明らかになった。本来、且来VI遺跡では中世以降の遺構面が存在していたと思われるが、今回調査及び既往調査から1-3区が最も基盤層の標高が高く、本来あった弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面が後世の開発行為により削平され、1-3区の東側でのみ遺存したと考えられる。1-3区以外の調査区については、第2遺構面が存在しない部分もあるが概ね共通した層序である。

第0層では住宅地及び現況の道路の造成盛土である。第1層は造成以前の水田耕作土、第2層は造成以前の水田耕作土に伴う床土である。第3層は黄褐色から黄色の粘質土を含む砂層で弥生時代から古代の遺物を含む遺物包含層である。中世の遺物を若干含むことから、形成された時期は中世以降と考えられる。鷄跡などが掘り込まれている部分があり、本来はこの層の上面が中世以降の遺構面であったと考えられるが後世において削平され一部にしか遺存しない。1-3区では土層断面の状況から遺構が掘り込まれる層を第3層中に複数確認しており、細分可能と判断するが遺物が少なく各土層の詳細な年代については不明である。第3'層は遺跡北部に位置する亀の川の氾濫堆積とみられる黒褐色の小砾を大量に含む土層である。調査区北半

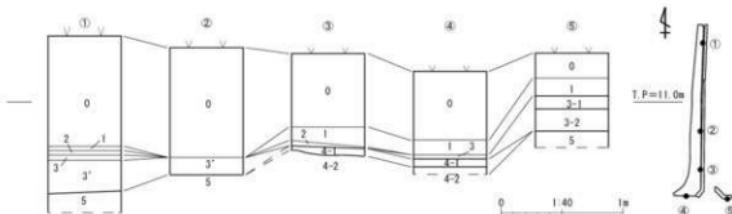


図 12 且来VI遺跡基本層序



図13 且来VI遺跡の発構配置図

部で確認できるが後世の開発行為により削平されている部分も多い。第4-1層は黄褐色の土層で弥生時代から古墳時代前期の遺物包含層である。古墳時代後期から古代の遺物を含む遺構が掘り込まれている第1遺構面だが、1-3区では後世の削平を受け遺存しない。第4-2層は黄褐色から褐色の土層でこの層の上面が弥生時代中期から古墳時代前期の遺物を含む遺構が掘り込まれる第2遺構面である。1・2区では残存状況が良好だが、北に向かって残存状況は悪くなり、3区から5区北側では河川の氾濫とみられる堆積土層及び中世以降の土地改変によって削平され、残存していない。1-3区では後世の削平を受け遺存しない。第5層は氾濫堆積による砂礫層及び黄褐色シルトを含む基盤層で無遺物層である。

第3節 弥生時代中期から古墳時代前期の遺構と遺物

弥生時代中期から古墳時代前期の遺構は調査区の南半部である1-1、1-2、2-1、2-2区でのみ確認している。検出した遺構は弥生時代中期の方形周溝墓と溝と弥生時代後期末から古墳時代前期の溝である。

【方形周溝墓】

2206方形周溝墓（図14-15、写真図版7・20、巻頭図版1・2）2-2区で検出した溝で検出長約3.00m、幅約1.70m、深さ約0.50m、断面は船底形を呈している。出土遺物から弥生時代中期の方形周溝墓の溝の可能性がある遺構であり、方形周溝墓であれば主体部は北に位置すると推定できるが、2-2区の北にある1-1区では他の溝や主体部を確認することができなかった。埋土は大きく上下の2層に分けることができ、下層に小砾を多数含むこと、隣接する北側1-1区及び2-2区北半部に小砾を含む氾濫堆積土とみられる土層が堆積していることから、方形周溝墓が造られた後、周辺は河川氾濫の影響を強く受けたと考えられる。出土した遺物は弥生土器壺（48）のほか弥生土器の細片がある。

1. 2.5H/4 黄褐色 細砂混シルト φ3~5cm円錐合 (2206方形周溝墓)
2. 2.5H/2 黄褐色 シルト混細砂 φ1cm円錐ごく少量合・跡分合 (2206方形周溝墓)
3. 2.5H/2 黄褐色 細砂混シルト φ1~3cm円錐ごく少量合 (2206方形周溝墓)
4. 2.5H/3 にじみ黄褐色 細砂混シルト φ3~5cm円錐ごく少量合 (2206方形周溝墓)
5. 2.5H/3 黄褐色 細砂混シルト φ1~3cm円錐ごく少量合 (2206方形周溝墓)
6. 2.5H/4 黄褐色 細砂混シルト φ1~3cm円錐多量合 (2206方形周溝墓)
7. 2.5H/3 黄褐色 細砂混シルト 2.5H/6 明黄色 シルトフリック (2206方形周溝墓)
8. 2.5H/4 にじみ黄褐色 シルト混細砂 中粒砂 2.5H/2 黄褐色 シルトブロック少量合 (2206溝)
9. 2.5H/4 にじみ黄褐色 細砂混シルト (地盤)
10. 2.5H/4 にじみ黄褐色 シルト混細砂 φ3~5cm 多量合 (氾濫堆積層)
11. 2.5H/1 黄褐色 シルト混中粒砂 やや粘質 φ1~10cm繊合 (氾濫堆積層)
12. 2.5H/1 黄褐色 シルト混中粒砂 やや粘質 φ1~10cm繊合 (氾濫堆積層)
13. 2.5H/20H(4)黄褐色 中粒砂シルトわざかに混じる (氾濫堆積層)
14. 2.5H/5 黄褐色 シルト混中粒砂 やや粘質 φ1~10cm繊合 (氾濫堆積層)

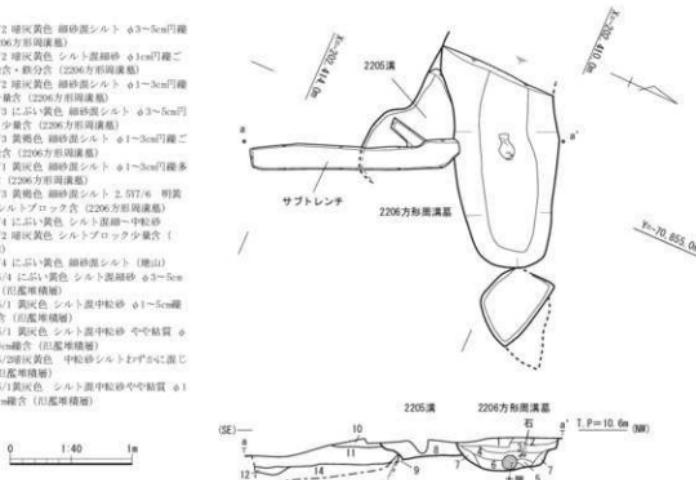


図14 弥生時代から古墳時代前期の遺構 (2206方形周溝墓・2205溝)

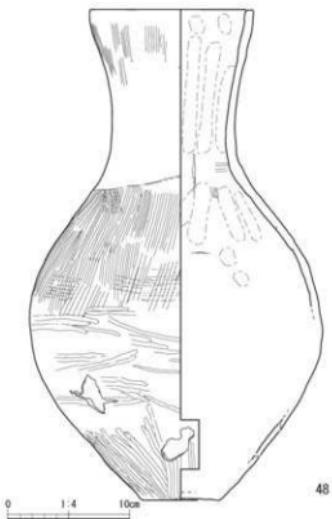


図 15 2206 方形周溝墓出土遺物

【溝】

2201 溝（図 16・17、写真図版 7・20・21） 2-1 区で検出した溝で検出長 12.30 m、幅 7.80 m。2204 溝に切られており、幅・深さは不明。出土した遺物は弥生土器甕（49～53）、鉢（54）、鉢もしくは甕（55）、高坏（56）、古墳時代前期の土師器壺（57・58）、甕（59～61）、低脚坏（62）、小型器台（63）、高坏（64～69）があり、弥生時代中期から古墳時代初頭の遺構とみられる。

2204 溝（図 16・17、写真図版 7・21） 2-1 区で検出した溝で検出長 12.30 m、幅 1.74 m、深さ 0.24 m、断面は段差のある一部な船底形を呈している。2201 溝より新しく、ほぼ同じ方向に延びることから 2201 溝を掘りなおしたものとみられる。出土した遺物は弥生土器壺（70）のほか土師器の細片がある。2201 溝の出土遺物と合わせて 2201 溝とともに弥生時代中期から古墳時代前期まで継続していた遺構と考えられる。

2205 溝（図 14・17、写真図版 7、巻頭図版 1） 2-2 区で検出した溝で 2206 方形周溝墓より古く、東へ延びると考えられるが氾濫堆積土によって削平され大半は遺存していない。溝ではなく土坑の可能性も残る。検出長 1.10 m、検出幅 0.44 m、深さ 0.12 m。出土した遺物は弥生土器壺（71・72）のほか土師器片があるが後世の混入の可能性が高い。

第4節 包含層等から出土した弥生時代中期から古墳時代前期の遺物（図 18・19、写真図版 21～25）

後世への遺構や包含層に混入した弥生時代中期から古墳時代前期の遺物として弥生土器壺（73・76・77）、甕（74・79）、甕蓋（75）、器台（78）、鉢（80）、高坏（81）、土師器壺（82～93）、甕（94～109）、鉢（110、111）、高坏（112～118）、低脚坏もしくは台付鉢（119）がある。土師器壺（86）は外面に縦方向の工具の圧痕や波状文が 3 段巡るもので同様の特徴を持つものは他に出土していないが、和歌山市所在井辺遺跡 4259 自然流路出土遺物に類似するものがあるため、庄内並行時期の壺と考える。鉢（80）は有孔甕の可能性も残る。

※『井辺遺跡、神前遺跡-都市計画道路松島本渡線（神前南）道路改良工事に伴う発掘調査報告書-』2014
公益財團法人和歌山県文化財センター

第5節 古墳時代後期から古代の遺構と遺物

古墳時代後期から古代の遺構は 1 から 5 区全ての調査区で検出している。調査区北半部である 3 から 5 区にかけては遺存状況が悪いが、これは 2-1 区の一部から 5 区にかけてみられる

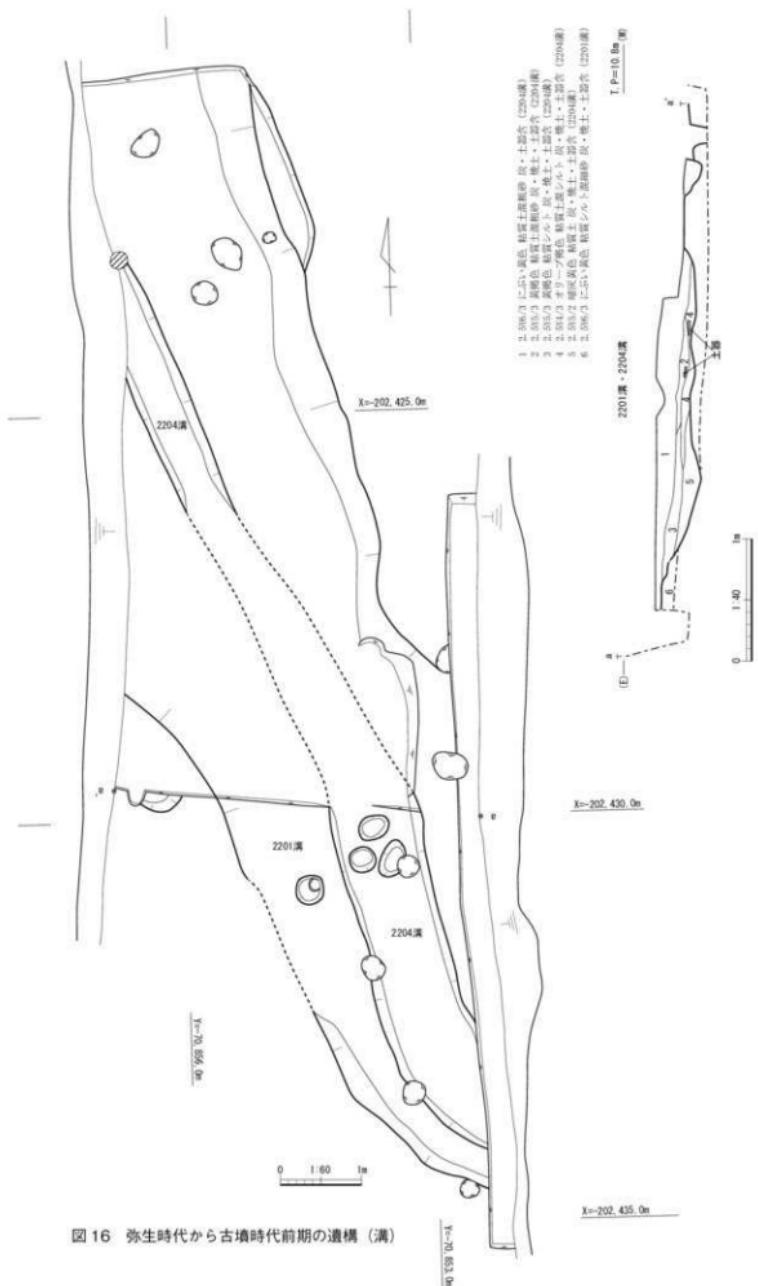


図 16 弥生時代から古墳時代前期の遺構（溝）

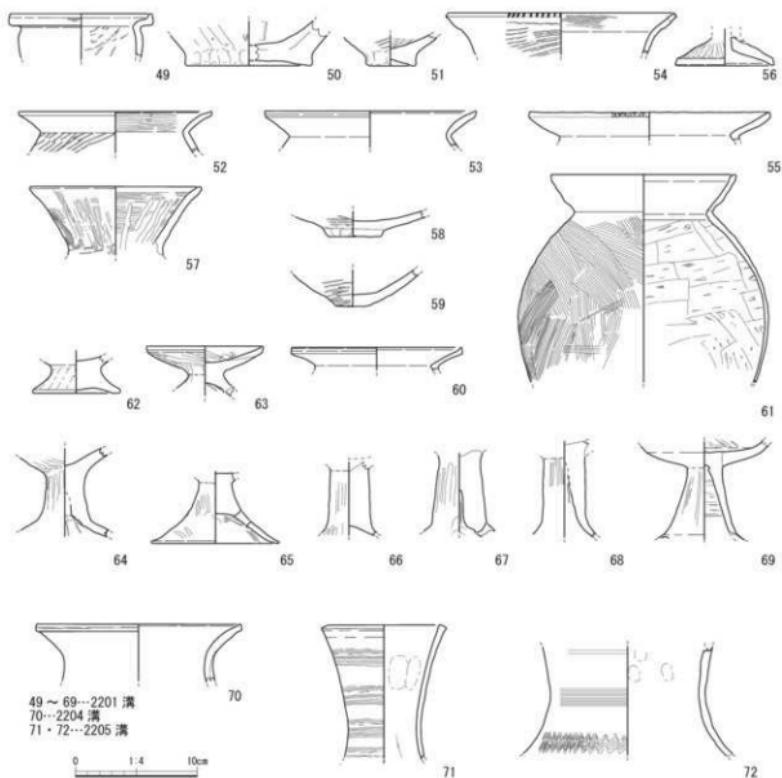


図 17 弥生時代から古墳時代前期の遺構出土遺物（溝）

氾濫堆積の影響と且来V遺跡南端部で確認した中世以降の大規模な土地改変が且来VI遺跡北部にも及んでいたためと考えられる。また2-1区及び2-2区では計6棟の掘立柱建物の可能性がある柱穴を確認している。極めて近い位置で隣接するものがあり、6棟全てが同時期に建てられたものとは考えにくく、建て直されたものと考えられるが出土遺物が少なく詳細については不明な点が多い。また、1-2区から2-1区にかけ、多数の土坑、柱穴、小穴を検出しているが、出土遺物の大半が詳細な時期を特定できない細片であることから、比較的の時期が特定可能な遺構を中心に記述する。

【掘立柱建物跡】

1 掘立柱建物（図20、写真図版8） 2-1区及び2-2区西で検出したほぼ正方位の掘立柱建物で検出した柱穴（2131柱穴、1107西柱穴、1232柱穴、2123柱穴、1237柱穴、1231柱穴、1203柱穴、1230柱穴）から2間×2間以上の総柱建物の可能性があり、1203溝、2148溝より新しく調査区外西に延びるとみられる。

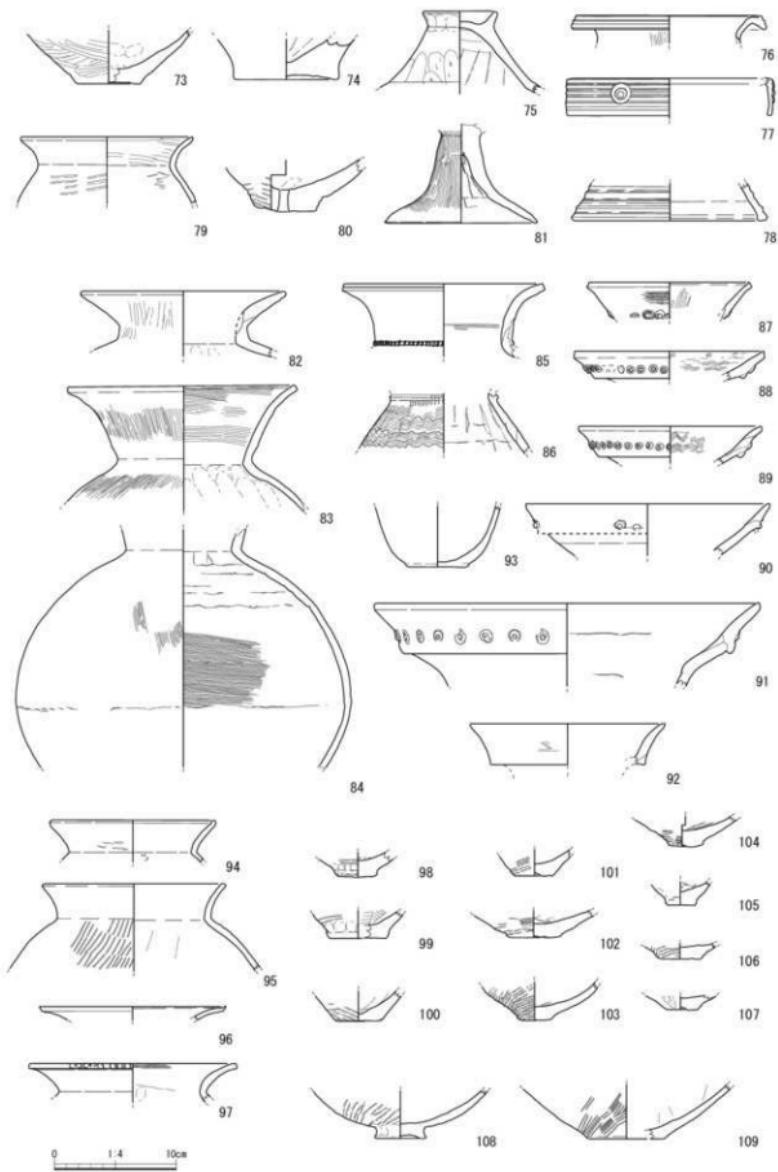


図 18 遺物包含層出土の弥生時代から古墳時代前期の遺物 (1)

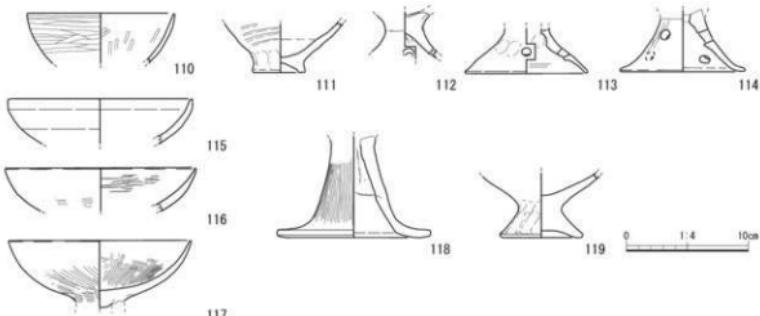


図 19 遺物包含層出土の弥生時代から古墳時代前期の遺物（2）

2 掘立柱建物（図 21、写真図版 8・9） 2-2 区南東部で検出したやや軸を北北西に傾けた掘立柱建物で、検出した柱穴（2030 柱穴、2191a 柱穴、2122 柱穴）から 1 間 × 1 間以上の規模で、調査区外西へ延びるとみられる。全ての柱穴が重複することから立て直されたと考えられる。

3 掘立柱建物（図 21、写真図版 9） 2-2 区中央で検出したほぼ正方位の掘立柱建物で、検出した柱穴（2514 柱穴、2133 柱穴、2146 柱穴）から 1 間 × 1 間以上の規模で、調査区外東へ延びるとみられる。ただし、周辺の溝との関係から 2146 柱穴はこの掘立柱建物のものではない可能性がある。

1～3 掘立柱建物の柱穴からは細片の遺物しか出土していないため詳細は不明なもの、掘立柱建物の柱穴が 1202 溝及び 2148 溝よりも新しいことから、これらの溝よりも新しい時期とみられ、飛鳥時代以降の可能性が高い。また、この 3 棟の掘立柱建物はきわめて近い位置にあり、同時期ではなく建て直しされたものと推測できるが建築順については不明である。

4 掘立柱建物（図 22、写真図版 9、24） 2-2 区中央部で検出したやや軸を北東に傾けた掘立柱建物で、検出した柱穴（2059 柱穴、2043 柱穴、2021 柱穴、2177 柱穴、2194 柱穴、2007 柱穴、2012 柱穴）から南北方向に延びる 1 間 × 4 間以上と推定される。2007 柱穴から 7 世紀中ごろの土師器壺（120）が出土している。

5 掘立柱建物（図 23、写真図版 9） 2-2 区中央部で検出した軸を北西に傾けた掘立柱建物の可能性が高い。検出した柱穴（2056 柱穴、2017 柱穴、2013 柱穴、2034 柱穴）から 1 間 × 3 間以上で調査区外東へ延びる可能性がある。

6 掘立柱建物（図 23） 1-2 区南端で検出した軸を北東に傾けた掘立柱建物の可能性が高い。検出した柱穴から 2 間以上で調査区外南へ延びる可能性がある。

【土坑】

1113 土坑（図 24・25、写真図版 10・24） 1-2 区東で検出した南北方向に不整形な細長い平面形状の土坑で、検出長軸 3.36 m、短軸 0.60 m、深さ 0.16 m、1202 溝をより新しく、1117 溝より古い。埋土には焼土・炭を含む。出土遺物は古墳時代後期から飛鳥時代の土師器壺もしくは高杯（121）・甕（122・123）・鉢（124）、須恵器長頸壺（125）である。

1145 土坑（図 24・25、写真図版 10・11・29） 1-2 区中央部で検出したやや歪な楕円形の土坑で、

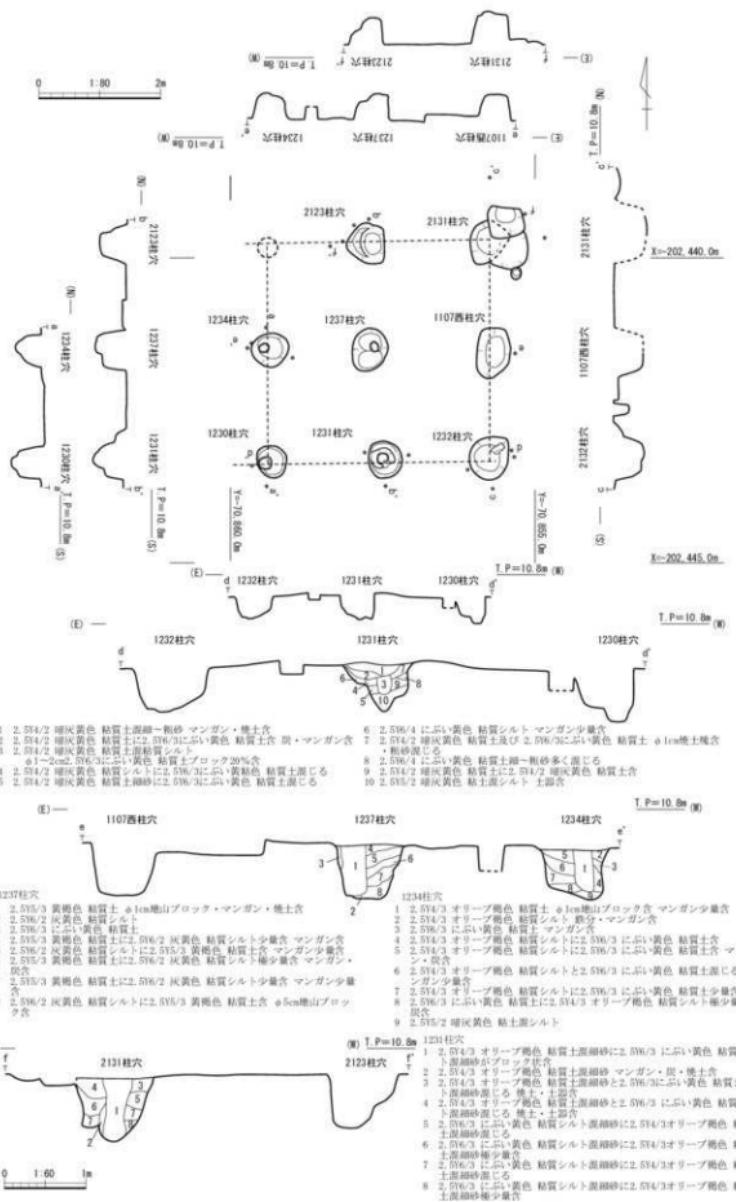
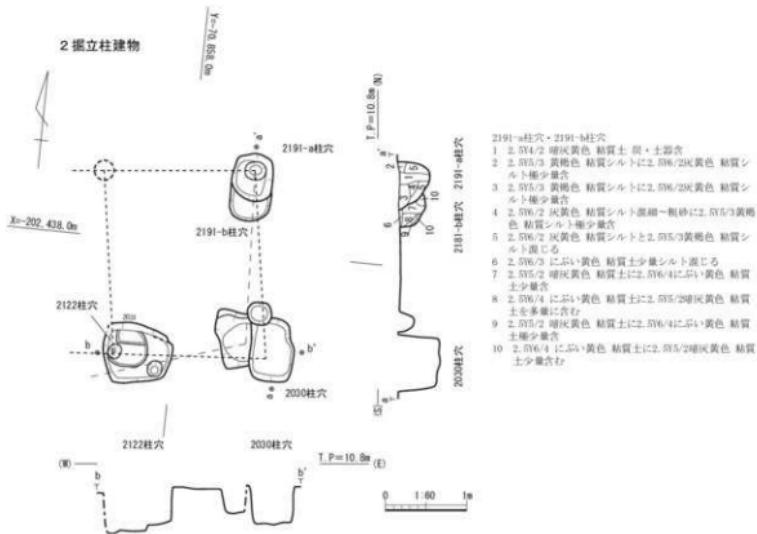


図20 1 摂立柱建物

2 据立柱建物



3 据立柱建物

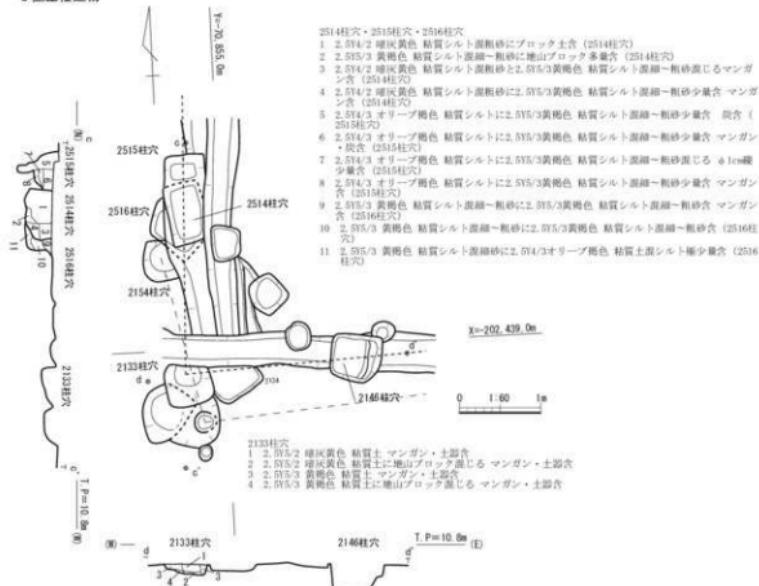


図 21 2・3 据立柱建物

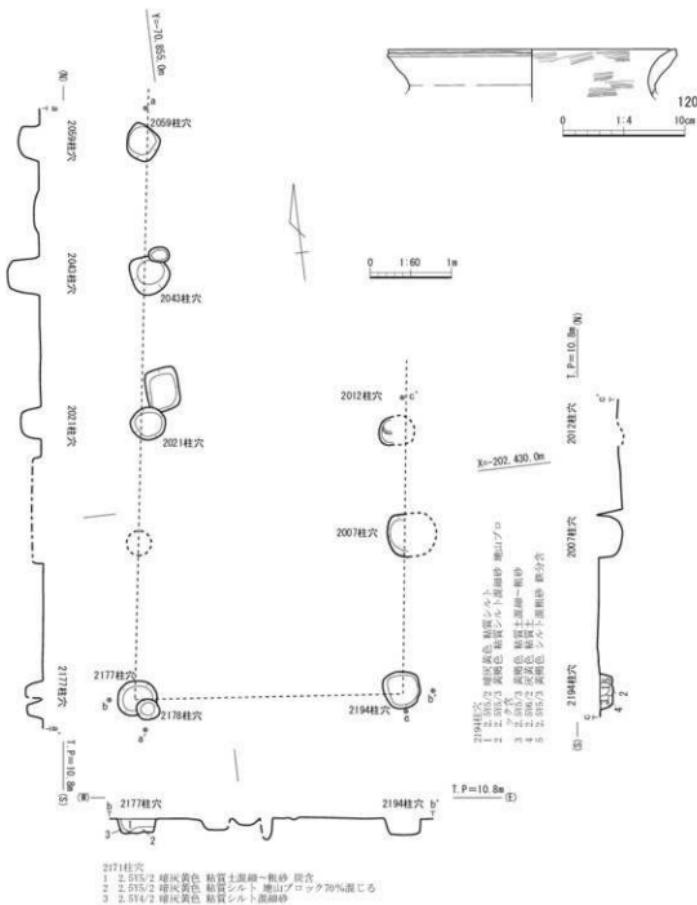


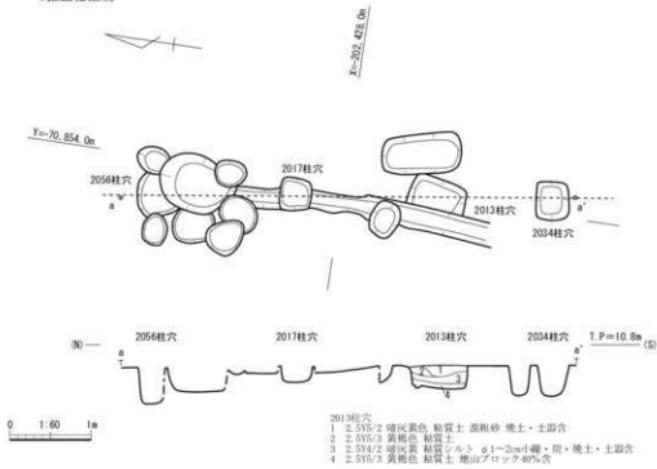
図22 4 据立柱建物・据立柱建物出土遺物

長軸 0.52 m、短軸 0.36 m、深さ 0.12 m で 1202 溝より新しい。出土遺物は土師器甕 (126) で古墳時代後期から飛鳥時代である。

1154 土坑(図 24・25、写真図版 11・24) 1-2 区南部で検出した楕円形の土坑で 1153 土坑より古い。検出長軸 0.24 m、短軸 0.28 m、深さ 0.08 m。出土遺物は須恵器壺 (127) で古墳時代後期から飛鳥時代である。

2152 土坑(図 24・25、写真図版 12・24) 2-1 区で検出したやや歪な方形の土坑で長軸 0.44 m、短軸 0.36 m、深さ 0.04 m、2136 溝より新しい。出土遺物は土師器甕 (128) で古代とみられる。

5掘立柱建物



6掘立柱建物

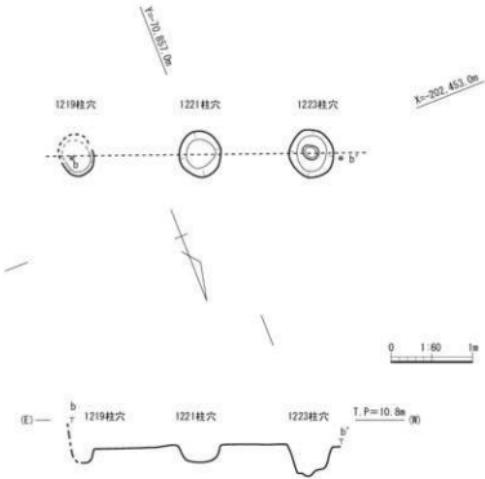


図 23 5・6 掘立柱建物

2189 土坑（図 24・25、写真図版 12・24）2-1 区で検出した円形の土坑で径 0.52 m、深さ 0.16 m、2136 溝及び 2188 土坑より新しい。出土遺物は土師器甕（129）である。

R3-10 土坑（図 24・25、写真図版 12・25）令和 3 年度既設側溝取り壊しの際に検出したやや歪な方形の土坑で検出長軸 1.12 m、検出短軸 0.52 m で調査区外東へ広がるが R3-12 溝よりも古い。出土遺物は須恵器坏身（130）、土師器甕（131・132）で古代とみられる。

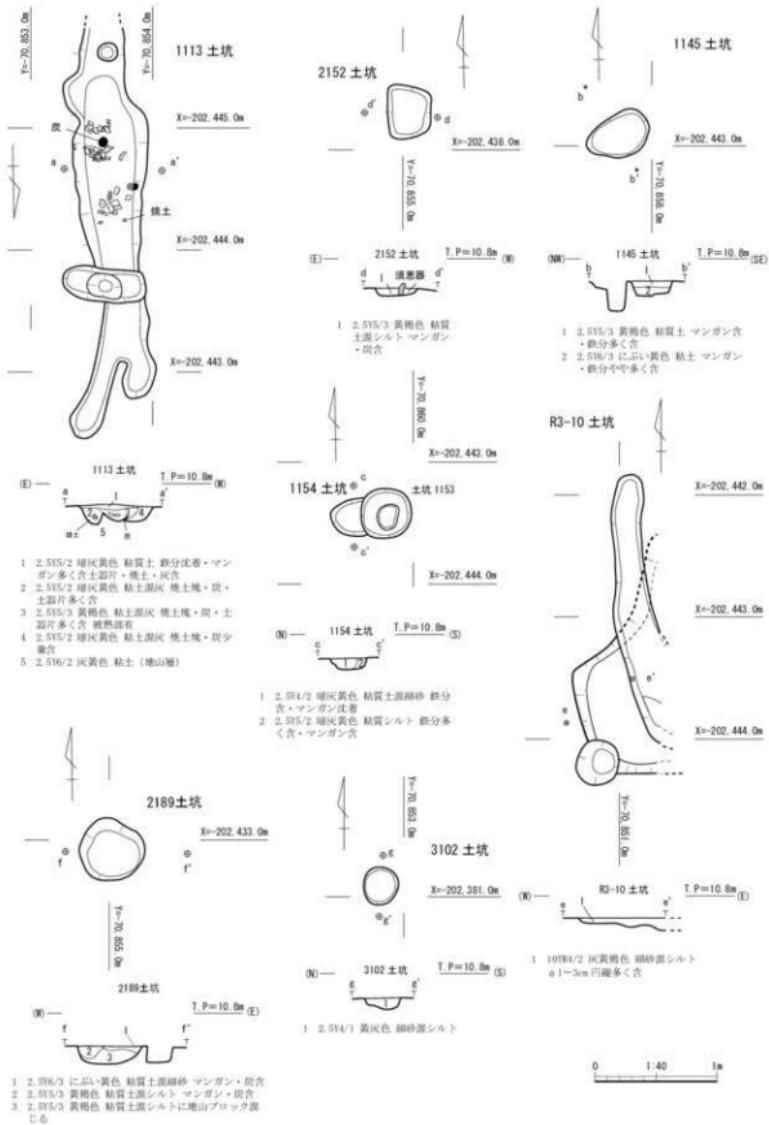


図 24 古墳時代後期から古代の遺構（土坑）

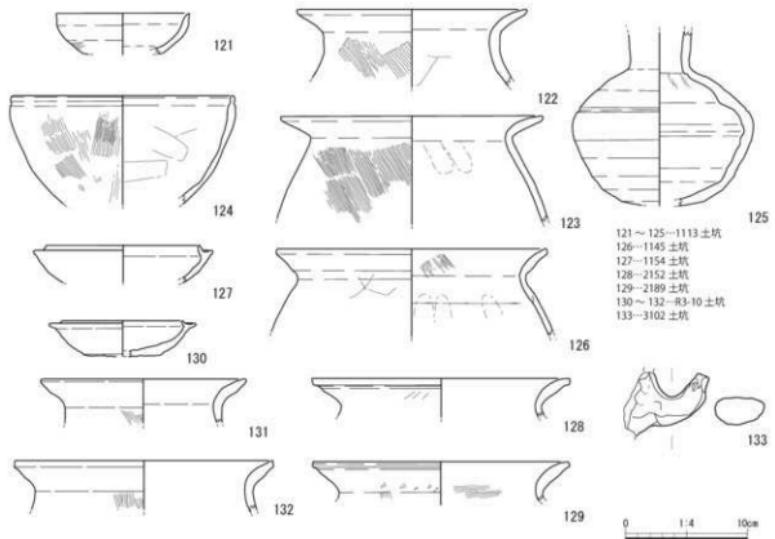


図 25 古墳時代後期から古代の出土遺物（土坑）

3102 土坑（図 24・25、写真図版 12・25）3 区で検出した土坑で径 0.30 m、深さ 0.08 m、出土遺物は土師器鍋もしくは瓶の把手（133）があり、古墳時代後期から古代とみられる。

【溝】

1201 溝（図 26・29、写真図版 13・25）2-1 区で検出した東西方向に延びる溝で検出長 5.02 m、幅 0.80 m、深さ 0.12 m 以上である。1202 溝より古い。出土遺物は古墳時代後期の土師器甕（134）がある。

1202 溝（図 26・29、写真図版 13・25）2-1 区で検出した東西方向に延びる溝で検出長 9.38 m、幅 0.90 m、深さ 0.24 m である。1201 溝より新しい。1202 溝埋没後に 1 挖立柱建物の柱穴が掘り込まれる。出土遺物は土師器土釜（137）・瓶か鍋の把手（136）、須恵器坏身（135）また 1201 溝のものの可能性もあるが土師器甕（138）があり、いずれも古墳時代後期から飛鳥時代とみられる。

2136 溝（図 27・29、写真図版 13・14・25）2-2 区で検出した南北方向に延びる溝で南は擾乱により破壊されている。検出長 12.84 m、幅 0.30 m、深さ 0.12 m である。2148 溝より古く、2168 溝より新しい。また埋没後に 5 挖立柱建物の柱穴が掘り込まれる。出土遺物は須恵器坏蓋（139）で古墳時代後期から古代とみられる。

2148 溝（図 27・29、写真図版 25）2-1 区で検出した東西方向に延びる溝で調査区外へ延びる。検出長 4.74 m、幅 0.30 m、である。2136 溝より新しく、埋没後に 2 及び 3 挖立柱建物の柱穴が掘られている。出土遺物は須恵器甕（140）で古墳時代後期とみられる。

2168 溝（図 27・29、写真図版 14・25）2-1 区で検出した東西方向に延びる溝で東は擾乱に

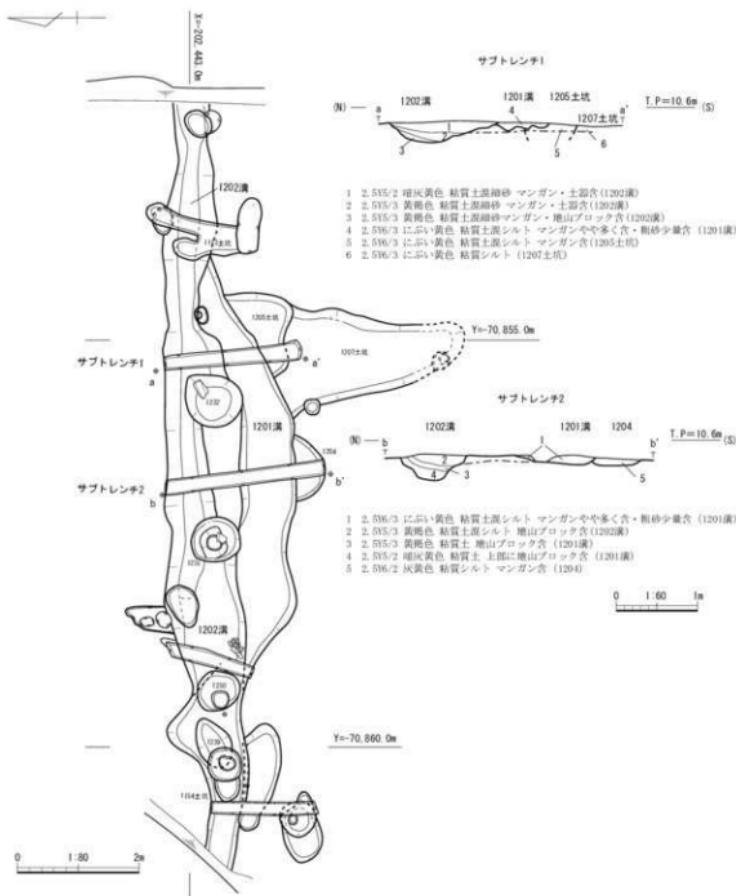


図 26 古墳時代後期から古代の遺構（溝）

より破壊されている。検出長 0.60 m、幅 0.30 m、深さ 0.24 m で 2136 溝より新しい。出土遺物は須恵器壺蓋（141）があり、古代とみられる。

5108 溝（図 28・29、写真図版 14・25）5 区で検出した東西方向に延びる溝で調査区外へ更に延びる。検出長 3.30 m、幅 1.50 m、深さ 0.18 m である。出土遺物は土師器羽釜（142）がある。
【柱穴、その他の遺構】

2035・2036 柱穴（図 27・29、写真図版 15・25）2-1 区中央で検出した柱穴で 2035 柱穴は径 0.60 m、深さ 0.36 m、2036 柱穴は梢円形の柱穴で長軸 0.63 m、短軸 0.42 m、深さ 0.42 m である。いずれの柱穴にも柱根の痕跡が残る。2036 柱穴は 2035 柱穴よりも新しく、掘り直

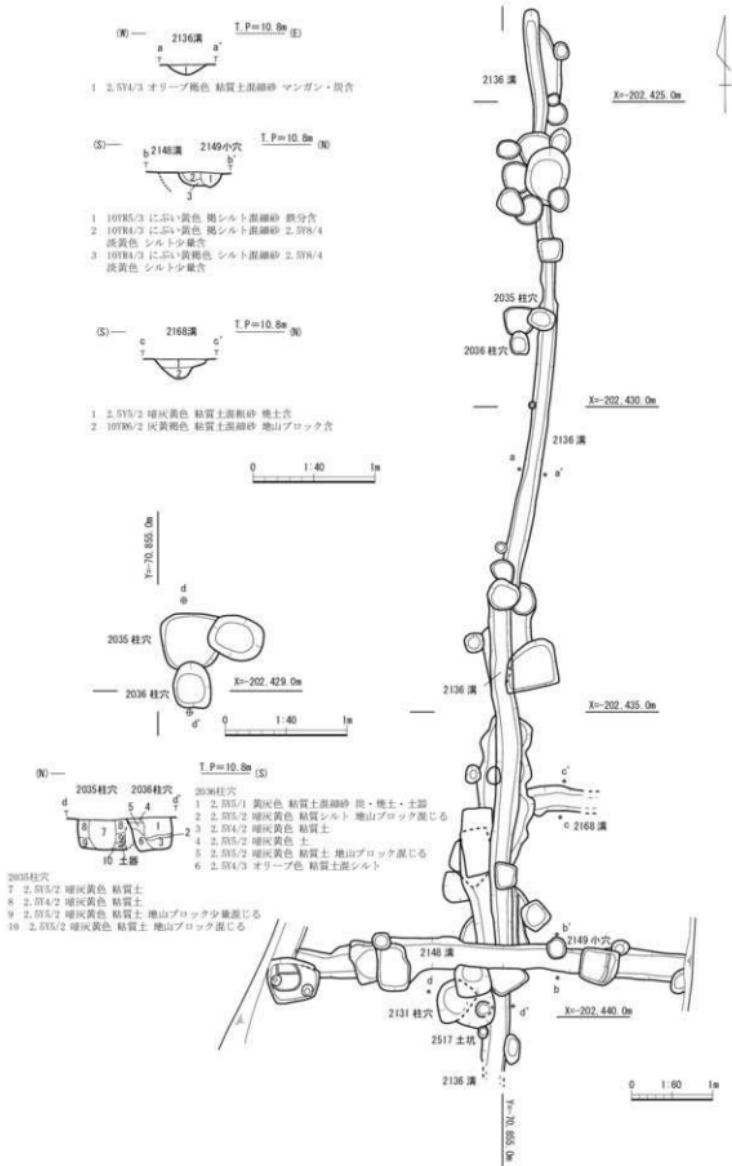


図 27 古墳時代後期から古代の遺構（溝・柱穴）

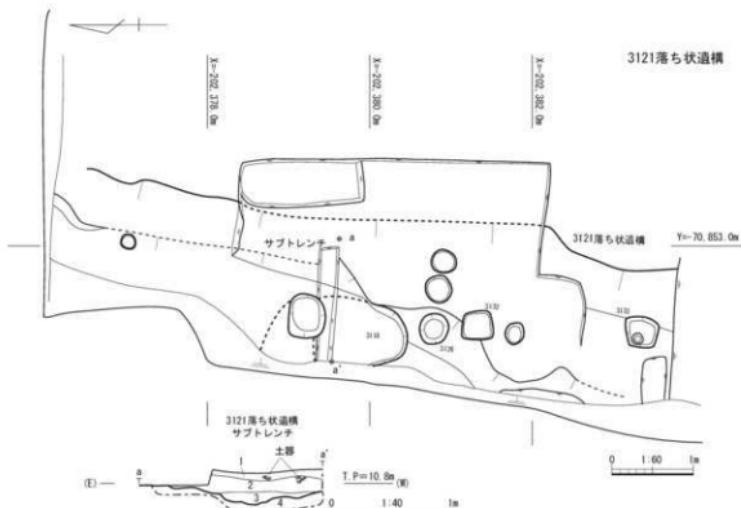
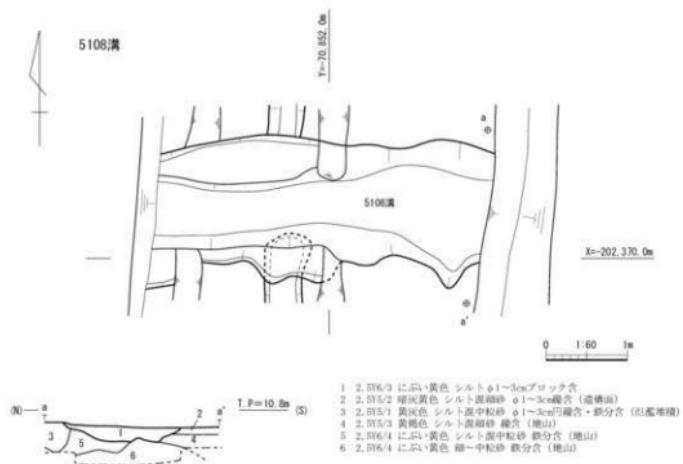


図 28 古墳時代後期から古代の遺構（溝・その他の遺構）

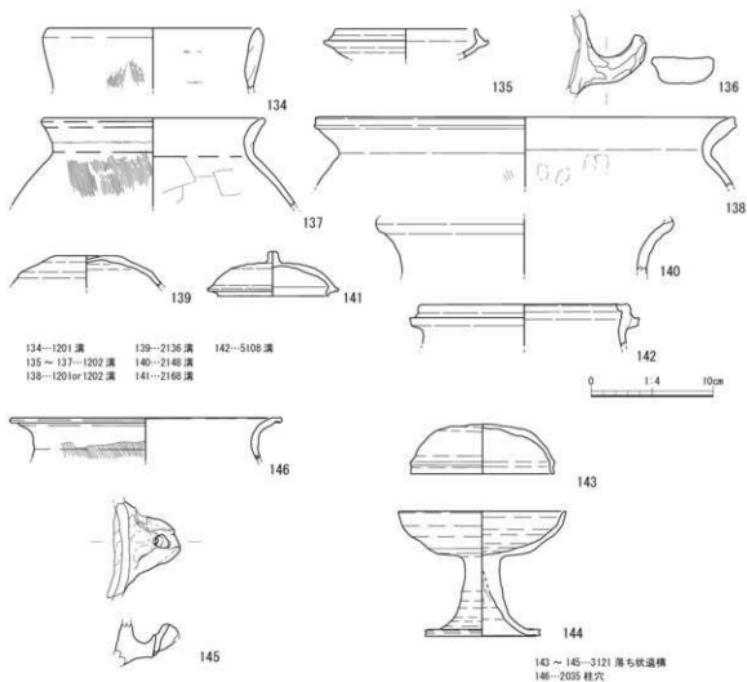


図29 古墳時代後期から古代の出土遺物（溝・その他の遺構）

された柱穴と考えられるが、周囲には関連する柱穴を検出できなかった。出土遺物は飛鳥時代とみられる土師器甕（146）がある。

3121 落ち状遺構（図28・29、写真図版15・16・25）4区西側で検出した落ち状の遺構で調査区外西と北・南に広がるとみられる溝の可能性もあるが、隣接する調査区で確認することができなかったため、落ち状遺構とした。検出長7.74m、検出幅2.00m、深さ0.36mで船底形を呈する。出土遺物は須恵器坏身（143）・高坏（144）、土師器甕の把手（145）で古墳時代後期から飛鳥時代とみられる。

第6節 包含層等から出土した古墳時代後期から古代の遺物（図30、写真図版25～27）

後世への遺構や包含層に混入した古墳時代後期から古代の遺物として土師器甕（147～149）、高坏（150～153）・甕（154～157）・須恵器坏（158～166）・坏蓋（167）・甕（168～170）・提瓶とみられるもの（171）・台付皿（172）、土製品土錐（173～177）がある。土錐は棒状土錐と管状土錐の2種がある。

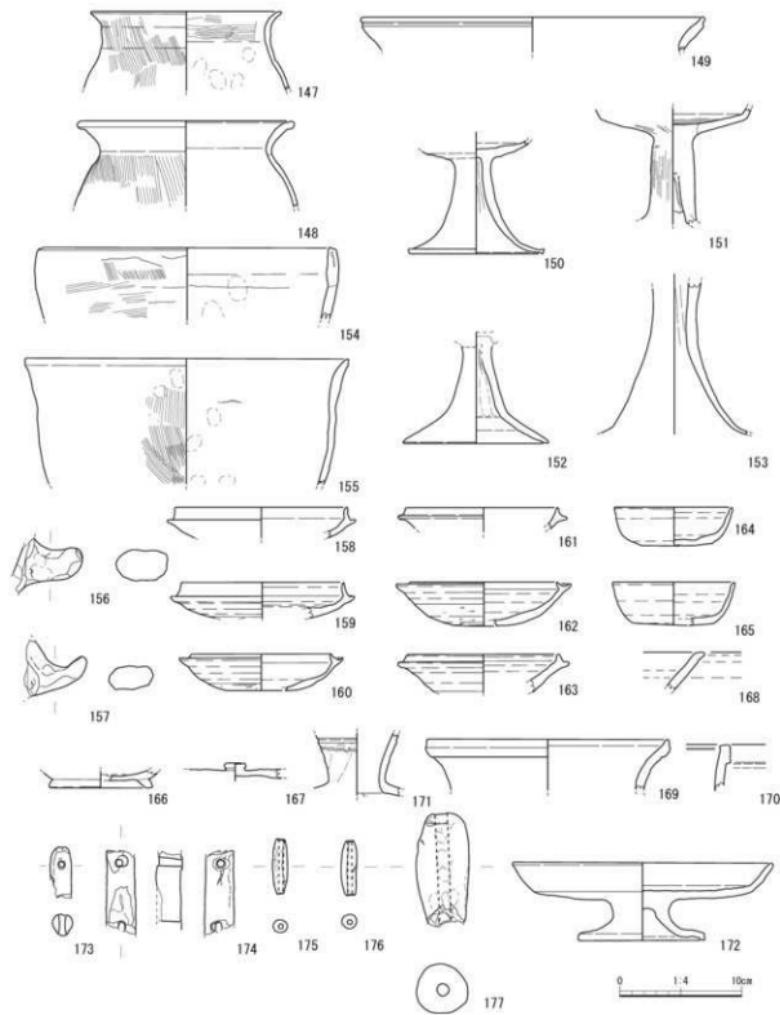


図30 遺物包含層出土の古墳時代後期から古代の遺物

第7節 中世以降の遺構と遺物

5区北半部の中世以降とみられる溝や3区の近世とみられる土坑などがある。一部1-2区や2-1区などで包含層直上から掘り込まれる鋤溝を検出しておき同時期の可能性があるが、遺物が少なく断定はできない。

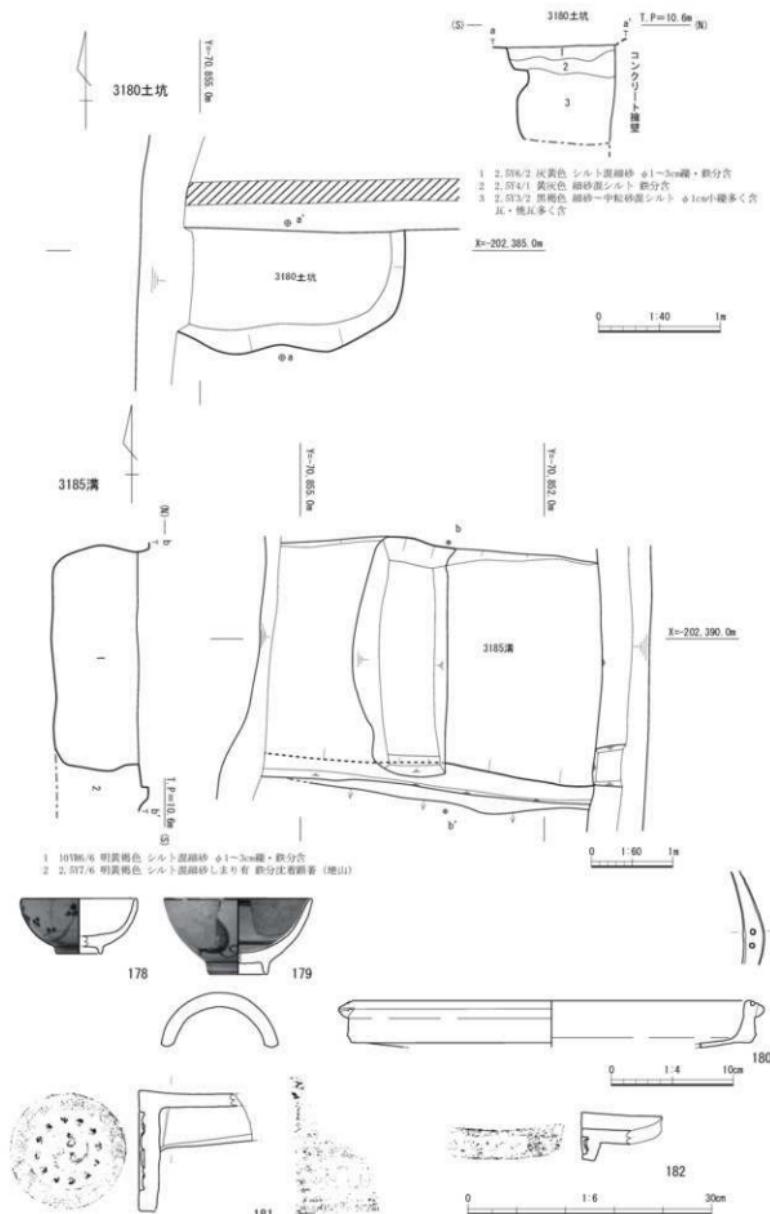


図 31 中世以降遺構と遺構出土遺物

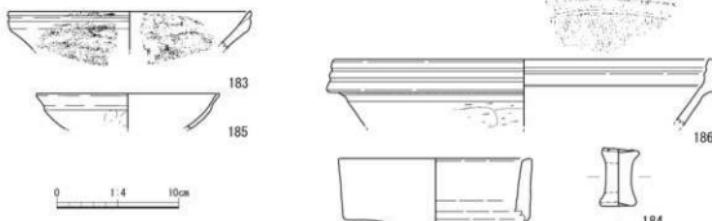


図 32 遺物包含層等出土の中世以降の遺物

【土坑】

3180 土坑（図 31、写真図版 16・27）3 区北西で検出した楕円形とみられる土坑で検出長軸 1.72 m、検出 0.92 m、深さ 0.76 m 以上。湧水のため完掘できなかった。北半部はコンクリート擁壁により遺存していない。調査区外西にわずかに広がるとみられる。出土遺物は染付碗（178・179）、土師質土器焼痕（180）、近世瓦（181・182）等である。

【溝】

3185 溝（図 31、写真図版 16）3 区南部を東西方向に延びる溝で検出長 4.02 m、幅 2.58 m、深さ 1.02 m である。埋土は小礫を含んだ人為的なものだが遺物は時期不明の施釉陶器片以外なく、何らかの開発行為に伴うものと考えられるが詳細は不明である。

第 8 節 包含層等から出土した中世以降の遺物 (図 32、写真図版 27・28)

後世への遺構や包含層に混入した中世以降の遺物として土製品（184）、瓦器挽（185）、灰落としもしくは火鉢とみられる瓦質土器（187）、焼き締め陶器すり鉢（186）が出土している。

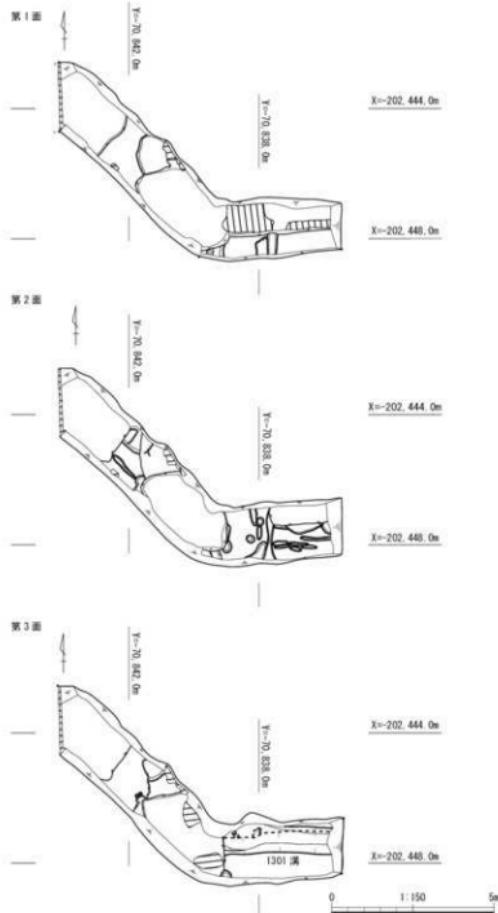


図 33 1-3 区構造配置図

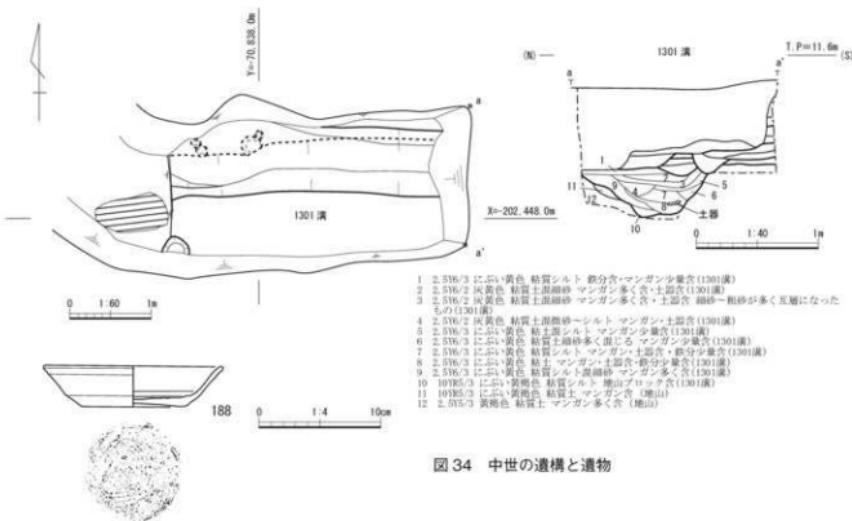


図34 中世の遺構と遺物

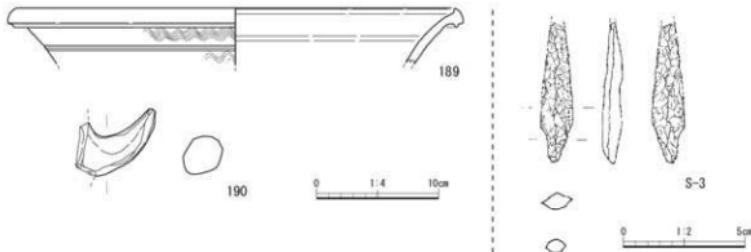


図35 遺物包含層出土の遺物

また1点のみだが縄文時代後期の浅鉢（183）があり、且来VI遺跡に由来するものではなく、周囲の遺跡からの混入と考えられる。

第9節 1-3区の遺構と遺物

1-3区は遺構面として3面を確認した。ただし、各調査区の層序と土層断面図の対比から他の調査区で確認した弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面は後世の削平により遺存していないと判断した。遺存しているのは古墳時代後期から古代の1面と中世以降の遺構面2面、計3面と推定される。しかし、中世以降の遺構面については出土遺物が少なく、詳細な時期は判明しなかった。ただし、包含層出土遺物から考えて中世以降の2面ある遺構面のうち1面については鎌倉時代と推定される。

【中世の溝】

1301 溝（図 34・写真図版 17・28） 1－3 区東部を東西方向に延びる溝で調査区外東に延びると推定できる。西側は擾乱により破壊されている。検出長 3.18 m、幅 1.14 m、深さ 0.40 m である。出土遺物は土師器皿（188）がある。検出したのは第 3 遺構面であり、他の調査区では第 1 遺構面に相当するが、調査区東側壁の土層堆積状況や出土した遺物から実際に掘り込まれたのは 1－3 区第 2 遺構面からの可能性が高く、出土遺物から鎌倉時代と考えられる。

第 10 節 包含層等から出土した 1－3 区の遺物（図 35、写真図版 28）

後世への遺構や包含層に混入した弥生時代のサヌカイト製の石鐵（S－3）、古墳時代から古代の遺物として須恵器甕（189）、土師器把手（190）がある。

第 11 節 まとめ

今回の且来 VI 遺跡の調査では弥生時代中期から古墳時代前期と古墳時代後期から古代、2 つの遺構面を確認した。河川の氾濫堆積の影響により遺跡北部では弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面は存在しないことも明らかとなった。

調査区南半部では弥生時代中期の方形周溝墓の可能性がある溝を検出した。堅穴建物跡など集落に関連するような遺構は確認できないなど、既往調査の成果と一致しており、弥生時代において調査地周辺が集落の中心であったとは考えにくい。遺跡北に位置する且来 V 遺跡の調査成果も踏まえると、弥生時代の調査地周辺は遺跡北側を流れる亀の川の氾濫の影響が大きく、集落とするには安定しない土地であったと思われる。且来 VI 遺跡の弥生時代の姿については、今回検出した方形周溝墓の可能性がある溝を含め、且来 VI 遺跡の東西にある岡村遺跡、亀川遺跡を含めた広域的な検討が必要となっている。

一方で掘立柱建物跡は可能性のあるものを含めて 6 棟検出しており、出土遺物や遺構の切り合いでから古墳時代後期から古代のものと考えられる。正方位ではなくやや北西もしくは北東に軸が傾くものがあるのも既往調査の成果と一致している。溝は東西方向に延びるものと南北方向に延びるものがあるがいずれも古墳時代後期から飛鳥時代初頭とみられる。掘立柱建物はこれらの溝が埋没した後に建てられていることから飛鳥時代以降に建てられたものと推測でき、これは隣接する既往調査の掘立柱建物群の時期ともほぼ一致する。一方で今回の調査区では既往調査で出土した奈良時代の遺物が少なかった。掘立柱建物群は飛鳥時代においては今回の調査区周辺に建てられ、次第に東へ移動していった可能性があり、掘立柱建物群が建てられるようになる古墳時代後期以降、且来 VI 遺跡南部では人々の活発な活動が確認できるようになる。

且来 V 遺跡では近年の調査で古代瓦や奈良時代の円面鏡が出土していることからも且来 VI 遺跡で検出した掘立柱建物群はなんらかの公的施設であった可能性を指摘できる。だが、現在のところ中心建物が検出されておらず、今後の慎重な検討が必要である。

表2 且来V遺跡及び且来VI遺跡出土遺物観察表(土器・土製品)

法器の()内は復元した大きさ、*はそれ以上。
色調は上部を基準にし、マスカラ記号を表示している。

順番	回収場所	目録番号	種類	出土地	遺物	法器	重 (cm)	保存庫	形態・技法	色 調	胎 土	備考	
1	写真図版 18	47	原底25 环身	1区	1 取り上 げ2	1.2*	高台径 5.5	内外面同軸ナダ。基付高台, 底部コビオナエ。	内外断面:灰白 外表面:模	1~3mmの石 英 (?) 少量			
2	写真図版 18	48	丸瓦	1区	1 取り上 げ1	14.1*	幅 8.8*	厚さ 2.3	内面有肩痕ナダ。外表面 ナダが。	内外面:灰白 外表面:模	1~3mmの石 英・チャート中量		
3	写真図版 18	52	土師器 埋立	1区	2 埋 土		2.9*	5%以下	磨面上より内外面調整不明瞭 現。内面ヨコハケ。口縁部 内ヨコナダ。	内外面:に赤い黄 根 断面:颶風	細かい石灰中 量		
4	写真図版 18	53-8	土師25 直	1区 No.5	2 取り上 げ1	(11.7)	3.4	40%	内面底部ヨコオサエナダ。 口縁部ヨコナダ。外表面ユビ オサエナダ。底部一方向 のヨコハケアズリ	内外面:に赤い黄 根 断面:鶴	1~4mmの石 英多數、1mmの 赤色酸化鉄少量	反転復元	
5	写真図版 18	82	土師器 高杯	1区	4 6層		7.7*	脚注部 69%	外表面ラット工具によるナダ か。内面ハゲ。底誠により 脚注部不明瞭	内外面:に赤い根 断面:鶴 断面:颶風	1~3mmの石 英・赤色酸化鉄少 量	一部反転復元	
6	写真図版 18	73	土師25 甕	1区	4 埋土1	(13.3)	14.4	40%	内面ヨコオサエ・板状工具 によるナダか。口縁部ハケ、 内面底部あり。外表面タフ ハケ。底部ハケ後ナダが。使用 による感誠	外面:明治期へ灰 青 内外面:に赤い黄 根 断面:鶴	やや粗 1~2mm の石英多量	一部反転復元	
7	写真図版 18	63	土師25 甕	1区	27		(3.5)	5%以下	磨面上より調整不明瞭。内 外表面ヨコナダ	内外面:に赤い根 断面:鶴	細かい石灰、 赤色酸化鉄多量		
8	写真図版 18	143 103	原底器 甕	2区 No.9	170 埋土		10.9*	脚注部 52	内面同心円文。外面上に格子 タキ	外面:灰白 内外面:灰 断面:灰鶴	1~7mmの石 英中量		
9	写真図版 18	60	原底器 环身	1区	9 (11.8)	2.0*	5%以下	内外面同軸ナダ	内外断面:灰白	1~2mmの石 英少量	反転復元		
10	写真図版 18	124	弥生土器 甕	2区 No.13	下層 灰茶色 褐色 白色 黒色 白口		5.0*	5%以下	底誠により内外面調整不明 瞭。内面・外表面ナダ、頸部 にラット工具によるナダと ヨコハケアズリ	外面:に赤い根 断面:灰鶴 内外面:模 断面:灰鶴	7mm位の片岩 (?) 1個、細かい 石英少量	反転復元	
11	写真図版 18	151	弥生土器 甕	2区 No.12~13	東壁削 下削り 3'~6' 層		6.8*	(5.6)	底部 50%	底部により内面調整不明瞭。 工具によるナダ、オサエあり 外表面タフ方向のハミガキ	外面:に赤い根 内外面:灰白 断面:鶴	1~2mmの石 英中量	反転復元
12	写真図版 18	140	弥生土器 広口甕	2区 No.12~13	東壁削 下削り 10'~12' 上層		(14.4)	2.5	10% 脚注部	口縁部内外面ヨコナダ。頸部 内外面工具によるナダから ヨコハケアズリ	外面:灰鶴 内外面:に赤い根 断面:鶴	2~3mmの片 岩 (?) 少量、1 mmの石英少量	反転復元
13	写真図版 18	140	弥生土器 広口甕	2区 No.12~13	東壁削 下削り 15'~16' 上層		(15.0)	5.5*	5%以下	内面ヨコオサエ・ナダ か。口縁部ヨコナダ。外表面 タフ方向のハミガキ	外面:灰白へ鶴 内外面:に赤い根 断面:明鶴	1~2mmの石 英・チャート少 量	反転復元
14	写真図版 18	26	弥生土器 広口甕	1区 No.1	口含糊 下層		(21.5)	3.2*	口縁部 15%	口縁部 内外面ヨコナダ。口縁部下部 に倒伏文	外面:に赤い根 内外面:に赤い根 断面:灰白	1~2mmの石 英・赤色酸化鉄多 量	反転復元
15	写真図版 18	100	弥生土器 甕	2区 No.9	4層	(16.9)	1.5*	5%以下	口縁部ヨコナダ。頸部内外 面工具によるナダか。	内外面:に赤い根 断面:灰白	1~2mmの石 英少量	反転復元	
16	写真図版 18	135	弥生土器 甕	2区	109 埋土	(15.6)	4.5*	5%以下	磨面上のため内外面調整不 明瞭。内面ナダ。口縁部ヨコ ナダ。外表面タキ	外面:根 内外面:に赤い根 断面:灰白	1~3mmの片 岩 (?) 少量、1 mmの石英少量	反転復元	
17	写真図版 18	13-2	弥生土器 高杯or盆	No.1	4層	(15.0)	(3.5)	5%以下	内面ヨコナダ。 頸部ヨコナダ。外表面タフ方 向にヨコハケアズリがある。	内外面: 模 断面:灰白	1~2mmの石 英・赤色酸化鉄少 量	反転復元	
18	写真図版 18	13-11	弥生土器 高杯	No.6	2 埋土		6.0*	(7.5)	杯底部 25%	杯底部・脚部ナダ。 底部凹凸ナダ。脚部ヨコナダ。 内面ヨコハケアズリ。脚部に黒斑	内外面:に赤い根 根 断面:に赤い根	1~3mm位の石 英少數、片岩 少數	反転復元
19	写真図版 19	49	土師器 高口甕	1区 No.3	口含糊 下層	(16.6)	5.3*	7%以下	磨面上より内外面調整不明 瞭。内面ナダ。口縁部ヨコナ ダ。頸部に強いヨコナダ。	内外面:に赤い根 根 断面:に赤い根	1~2mmの石 英少數、1mmの 赤色酸化鉄中量	反転復元	
20	写真図版 19	34	土師器 甕	1区 No.3	口含糊 下層	(23.0)	2.9*	5%以下	磨面上より内外面調整不明 瞭。内面ナダ。口縁部ヨコナ ダ。	内外面:模 断面:灰白	細かい石灰、 赤色酸化鉄中量	反転復元	
21	写真図版 19	96	土師器 直口甕	2区 No.8	4層		4.3*	5%以下	磨面上より調整不明瞭。 内面工具によるナダか。頸部 内面ヨコナダ。	外面:に赤い根 内外面:灰白 断面:灰白	1~2mmの石 英少數		
22	写真図版 19	42	土師器 高杯	1区 No.2	口含糊 下層		7.7*	脚注部 90%	外面ナダ。脚注部へラット工 具によるナダか。底誠によ り調整不明瞭。	内外断面:に赤い根 断面:鶴	1~5mm位の石 英少數、1~2 mm位の赤色酸化鉄 少數		

番号	固・固部	登録番号	種類 器種	地区	機種 部位	法 寸 径 (cm)	底径 高さ 底径	残存率	形態・技法	色 調	地 土	備 考		
23	厚窓圓版	14	須惠器 环身	1区 No.2	4層 (包含層)	(11.2)	1.9+	5% 以下	内外面回転ナゲ	内外断面：灰白	褐 1～2mmの石英少量	反転復元		
24	厚窓圓版	42	須惠器 环身	1区 No.2	包含層 下層	(12.0)	2.8+	10%	内外面回転ナゲ、底部回転 へラケヅリ	内外断面：灰白	褐 褐色～石英(?) 少量、最大3mm大 のチャート微量	反転復元		
25	厚窓圓版	11	須惠器 环身	1区 No.3		(12.0)	2.1+	5% 以下	内外面回転ナゲ	内外断面：灰白	褐 細かい白色砂 粒少量	反転復元		
26	厚窓圓版	41	須惠器 环身	1区 No.4	包含層 下層	(11.5)	1.6	5% 以下	内外面回転ナゲ	内外断面：灰白	褐 1mm以下の白 色砂粒少量	反転復元		
27	厚窓圓版	96	須惠器 环首	2区 No.8	4層	(13.6)	1.3+	5% 以下	内外面回転ナゲ、一部外 面に回転へラケヅリ	外外面：灰白 断面：灰灰	褐 細かい白色砂 粒微量	反転復元		
28	厚窓圓版	51	須惠器 盖	1区 No.3	包含層 下層	(14.5)	1.8+	5% 以下	内外面回転ナゲ、底部回転 へラケヅリあり	内外断面：灰白	褐 1～4mm大 の石英(?) 少量	反転復元		
29	厚窓圓版	34	須惠器 高环	1区 No.3	包含層 下層		2.6+	5% 以下	内外面回転ナゲ、脚部透 じ口凹所	内外断面：灰白	褐 1～3mmの石 英少量	反転復元		
30	厚窓圓版	15- 22	須惠器 蓋	No.8～9	5層直上 精査		2.5+	高台部 25%	内外面回転ナゲ。外端高台 の上部に回転へラケヅリ。 輪付台	内外面：灰白 断面：灰白・褐色	褐 1～4mmの石 英少量	反転復元		
31	厚窓圓版	96	須惠器 蓋 or 古 付鉢	2区 No.8	4層		5.5+	高台部 25%	内外面回転ナゲ、高台の上 部に回転へラケヅリ。輪付 高台	内外面：灰白 断面：明褐色	褐 1～最大10 mmの石英多量	反転復元		
32	厚窓圓版	57	土師器 甕	1区 No.5	包含層 下層		(2.3)	5% 以下	内外面ヨコナゲ	外外面：明褐色 断面：褐	褐 細かい赤色陶 化砂微量			
33	厚窓圓版	96	土師器 甕	2区 No.8	4層		(3.9)	5% 以下	磨滅により内外面調整不 明瞭。外外面ヨコナゲか	外外面：に古い痕 跡、断面：閑灰	褐 細かい石英 (?) 少量			
34	厚窓圓版	13	土師器 甕	1区 No.1	4層 包含層		4.4+	5% 以下	磨滅により調整不明瞭。口 縁部に外ヨコナゲ、一部 抜状工具によるナゲか	内外面：に古い痕 跡、外外面：灰白 断面：黒褐	褐 1～2mmの石 英多量			
35	厚窓圓版	49	土師器 甕	1区 No.3	包含層 下層		4.0+	5% 以下	削減のため内外面調整不 明瞭。内面側ヨコハカ、口 縁部ヨコナゲ、外縁ヨケカ	内外面：に古い痕 跡、断面：明褐色	褐 細かい石英 (?) 少量			
36	厚窓圓版	26	土師器 甕	1区 No.1	包含層 下層	(20.0)	4.1+	口縁部 10%	削減のため調整不明瞭。内 部外ヨコナゲ。一部板状工 具によるナゲか	内外面：に古い痕 跡、断面：黒褐	褐 細かい石英、 チャート多量	反転復元		
37	厚窓圓版	49	土師器 把手	1区 No.4	包含層 下層	長さ 5.3	幅 4.0	厚さ 2.0	?	磨滅のため調整不明瞭。外 外面ナゲ	外外面：に古い痕 跡、断面：灰褐	褐 細かい石英、 チャート中量		
38	厚窓圓版	49	土師器 把手	1区 No.4	包含層 下層	長さ 6.3	幅 4.0	厚さ 3.2	?	内面側ヨイハケ・ユビオサエ 後全体的にナゲ	内外面：に古い痕 跡、断面：赤褐	褐 1～2mmの石 英		
39	厚窓圓版	20	土製品	1区 No.6	包含層 上層	長さ 5.1-	幅 1.3× 1.4	重量 16.94g	90%	磨滅のため調整不明瞭。内 部外ヨコナゲ	内外面：黄褐 断面：に古い痕	褐 1～5mm位 の石英多量		
40	厚窓圓版	15- 22	瓦	No.8～9	5層直上 精査	長さ 9.4+	幅 4.9+	厚さ 2.1	10%	凸面及び側面工具によるナ ゲ、側面ヨコナゲ。全体的に 他成形法	内外面：灰白 断面：に古い痕	褐 1～2mmの石 英少量、1～2mm 高さ：(5.7) の赤褐色化砂微量		
41	厚窓圓版	100	平瓦	2区 No.9	4層	11.0+	幅 11.3+	厚さ 2.8	10%	内面有目板。外表面へラナゲ か	内外面：灰白 断面：灰白	褐 1～6mmの石 英中量		
42	厚窓圓版	93	土師器 土釜	2区 No.11-12	須惠器 トレンシ 下層 2層	(21.7)	6.6+		5% 以下	内面板状工具によるナゲ、 須惠器部へラケヅリ。口縁 部ヨコナゲ。外縁ヨコヒオサ エ。板状工具によるナゲか	内外面：に古い痕 跡、断面：灰白	褐 1～4mmの片 岩少量、細かい石 英少量	反転復元	
43	厚窓圓版	12	土師器 土釜	1区 No.6	包含層	(25.0)	2.1+		5% 以下	磨滅のため調整不明瞭。内 部外ヨコナゲ	内外面：に古い痕 跡、断面：灰白	褐 細かい石英、 赤褐色化砂中量	反転復元	
44	厚窓圓版	100	瓦器 椀	2区 No.9	4層		2.1+	高台径 (5.9)	20%	内面ヨコハカ。外縁ヒオ サエ・ナゲ。輪付高台	内外面：灰白 断面：灰白	褐 反転復元		
45	厚窓圓版	96	瓦器 椀	2区 No.8	4層	(14.4)	5.1	高台径 (5.9)	30%	磨滅により調整不明瞭。内 部へラケヅリ。口縁部ヨコ ナゲ。外縁ヒオサエ・ナゲ。輪 付高台	内外断面：閑灰	褐 反転復元		
46	厚窓圓版	11	瓦器 小皿	1区 No.3	4層 (包含層 +須惠器層)		9.0	1.8	4.4	7%	内面ヨコハカ。見込みジ ダガ状のヘリミガキ。口 縁部～外縁ヨコナゲ	内外面：灰	褐	
47	厚窓圓版	13	青磁 碗	1区 No.1	4層 包含層		2.4+		5% 以下	磨滅のため調整不明瞭。	内外面：灰白	褐		

番号	図・版番	登録番号	種類 基準	地区	通巻 順位	法 規 (cm)	寸径 高さ 直径	残存率	形態・技法		色 調	地 土	備 考	
									口径	底さ	底径			
48	国15 写真図版 20 29	569	弥生土器 長柄瓶 等	2-1区	2201	13.1	39.8	6.3	100%	内面テナ方向ナメ。底部シ ボリューム、体部エラーナ サエ、外面タッカ。体部下部に ハラミガキ。体部下部に2ヶ所 所附乳。	表面：にい・黄褐色 ～灰褐色 内部：にい・赤褐色 断面：褐色	粗・2mm以下の片 岩多量、1.5mm以 下のチャート少量		
49	国17 写真図版 29	566	弥生土器 甕？	2-2区	2201(底 第2面)	(11.5)	3.6+		口縁部 ～体部 コルク	内面ヘラケズリ。口縁部 10%	外断面：灰白 内部：浅黄色	粗・1mm以下の片 岩多量	反転復元	
50	国17 写真図版 29	559	弥生土器 甕	2-2区	2201(底 第2面)		3.7+	(10.1)	底部 40%	内面工具ナメ、外面ヘラケ ズリ、底部付近へ底部コル ク	外断面：暗灰 内部：オーブ風 断面：褐色	粗・2mm以下の片 岩、白色小石多量	反転復元	
51	国17 写真図版 29	566	弥生土器 甕	2-2区	2201(底 第2面)		2.5+	3.6	底部 70%	外底部部ビオリザ、外面タ ッカ。内面工具によるハケ	外：褐色、にい・褐 色 内断面：にい・褐	粗・2.5mm以 下的非 赤褐色化粧、白色 少量	一部反転復元	
52	国17 写真図版 29	566	弥生土器 甕	2-2区	2201(底 第2面)	(15.8)	3.4+		5%以下	内面ハケ。外面部タタキ	外：浅黄色 内部：にい・褐 色 断面：褐色	粗・1~2mmの砂 粒、長石含む	反転復元	
53	国17 写真図版 29	560	弥生土器 甕	2-2区	2201(底 第2面)	(17.4)	3.0+		5%以下	側底により調整不規則だが 内面にはナメが	外断面：浅黄色 内部：褐色	粗・表面化粧合 わし、砂粒少	反転復元	
54	国17 写真図版 29	559	弥生土器 甕	2-2区	2201(底 第2面)	(18.4)	(3.4)		口縁部 10%	外面部に黒斑あり。外面部 タッカ。口縁部鋤目	外：褐色、にい・褐 色 内断面：褐色	粗・1mm以下の非 赤褐色化粧、白色 多量	反転復元	
55	国17 写真図版 29	559	弥生土器 甕 or 鉢	2-2区	2201(底 第2面)	(19.5)	2.4+		口縁部 8%	口縁部端に刻み目、内面ナ メナメ、外面部底に黒斑 等不規則	外断面：にい・褐 色 内断面：にい・褐 色	粗・1~2mmの砂 粒、石英含む	反転復元	
56	国17 写真図版 29	559	弥生土器 高杯	2-2区	2201(底 第2面)		2.3+	8.0	20%	外面部ラミガキ。内面ナメ	外：浅黄色 内部：灰白	粗・1~2mmの砂 粒、石英、赤色 化粧合む		
57	国17 写真図版 29	560	土師器 曲	2-2区	2201(底 第2面)	(13.8)	5.6+		口縁部 25%	内面コロハゲ後ヘラミガキ。 外面部ハケ	外：褐色 内部：灰白 断面：黑色	粗・1.5mm以下の 白色、灰色化粧少	反転復元	
58	国17 写真図版 29	559	土師器 直	2-2区	2201(底 第2面)		2.1+	2.2	5%	内面板状工具によるナメか、 外面部タッカ。底部貼付部ビ オリザエ後ナメ	外断面：粗 内部：にい・褐 色 断面：にい・褐 色	粗・1~2mmの砂 粒、石英含む	一部反転復元	
59	国17 写真図版 29	559	土師器 直	2-2区	2201(底 第2面)		3.0+	2.8	5%以下	表面により調整一様不規 則。内面板状工具によるナメ、 外面部タッカ。底部ナメ	外断面：粗 内部：にい・褐 色 断面：褐色	粗・1~2mmの砂 粒、石英含む	一部反転復元	
60	国17 写真図版 21	568	土師器 直	2-2区	2201(底 第2面)	(13.8)	1.9+		5%以下	内面～口縁部外面部ナメ	外断面：にい・褐 色 内部：明褐色 断面：浅黄色	粗・1~2mmの砂 粒、赤色化粧合 む	反転復元	
61	国17 写真図版 21	559	土師器 直	2-2区	2201(底 第2面)	(15.0)	17.0+ (20.5)	15%	体部是 大坪	口縁部 ～体部 (20.5) 15%	体部ハ ケ、内面ヘラケズリ。 外面部底斑ある。口縁部ナメ	外：褐色 内部：灰白 断面：にい・褐 色	粗・2.5mm以下の 片岩多量	反転復元
62	国17 写真図版 21	559	土師器 低脚杯	2-2区	2201(底 第2面)		3.0+	脚部径 7.1	40%	外面部ビオリザエ。底部ナメ	外：褐色 内部：にい・褐 色 断面：明黄色	粗・1~2mmの砂 粒含む		
63	国17 写真図版 21	368	土師器 小型器台	2-2区	2201(底 部ア セ) 第2面	(9.4)	3.7+		器台～ 脚部 60%	内面外 ～マ ギ。口縁部 脚部ナ メ	外断面：灰白 内部：褐色、灰白	やや粗・1.5mm以 下の片岩、褐色板 、白色板少	一部反転復元	
64	国17 写真図版 21	560	土師器 高杯	2-2区	2201(底 第2面)		7.3+		脚部 60%	外面部ヘラミガキ。脚内部工 具によるハケ	外断面：にい・褐 色 内部：浅黄色、に い・褐	粗・1mm以下の白 色、半赤色化粧少	一部反転復元	
65	国17 写真図版 21	559	土師器 無柄高杯	2-2区	2201(底 第2面)		5.8+	(10.2)	脚部 50%	脚部内面ハケ。外面部ヘ ラミガキ。穿孔4ヶ所	外断面：にい・褐 色 内部：灰白	粗・1mm以下の白 色化粧少	一部反転復元	
66	国17 写真図版 21	560	土師器 高杯	2-2区	2201(底 第2面)		5.8+		脚部 50%	脚部ヘラミガキ	外断面：明褐色 内部：褐色	やや粗・1.5mm以 下の白色、褐色少	一部反転復元	
67	国17 写真図版 21	559	土師器 高杯	2-2区	2201(底 第2面)		6.7+		脚部 60%	脚部状部ヘラミガキ。穿 孔4ヶ所	外断面：にい・褐 色 内部：褐色	粗・1mm以下の非 赤褐色化粧多量	一部反転復元	
68	国17 写真図版 21	559	土師器 高杯	2-2区	2201(底 第2面)		7.9+		脚部 60%	脚部状部ヘラミガキ。内 部底部ヘラミガキ	外断面：にい・褐 色 内部：浅黄色 断面：褐色	粗・1.5mm以下の 白色化粧少	一部反転復元	
69	国17 写真図版 21	559	土師器 有柄高杯	2-2区	2201(底 第2面)		8.1+		50%	脚部ヘラミガキ。内面ヘラ ケズリ。坪部内面ヘラミガ キ	外断面：褐色 内部：灰白 断面：褐色	良・0.5mm以下の 灰褐色、褐色少	反転合成	
70	国17 写真図版 21	576	弥生土器 広口甕	2-2区	2201(底 下 第2面)	(16.6)	4.7+		口縁部 20%	口縁部端に疑似回線か、唐 城底のため調整不規	外断面：歩道 内部：明褐色 断面：褐色	粗・5mm以下の片 岩、半赤色化粧多 量	反転復元	
71	国17 写真図版 21	582	弥生土器 直口甕	2-1区	2205(底 第2面)	(9.0)	11.9+		口縁部 30%	内面磨擦により調整不規 則。口縁部コナダ、外面部 泥文4段、各面上に2ヶ所ずつ の黒斑あり	外断面：褐色 内部：にい・褐 色 断面：褐色	粗・1~2mmの片 岩微量、1~2mm の石英中量	反転復元	

番号	国・国際 登録 番号	登録 種類	地区	構造 層位	法 規 重 量 (cm) 柱径 高さ 底径	残存率	形態・技法	色 調	地 土	備 考	
72	国17 写真版 21	再生土器 広口壺	2-1区	2205薄 壁より西 第2面	9.0+ 25%	削減のため内外面調整不明 厚。内面ユビオサナ・ナダ、 外面削除2段波状	外面：に白い黄 内面：灰黄 断面：黒褐色	白、1.5mm以下の 白色、灰色化少量	反転復元		
73	国18 写真版 21	再生土器 広口壺	49	再生土器 底部 埋土	4.4+ 7.2 70%	内面ユビオサナ・ナダ、外 面削除2段波状 内面に黒斑あり	外面：に白い黄 内面：灰黄 断面：黒褐色	白、1mm以下の 黑色化多量	反転復元		
74	国18 写真版 21	再生土器 壺	643	3157 埋土	3.4+ (0.2)	底部 50%	表面により調整不明厚。内 外面ナナ・ユビオサナ	外面：灰白 内面：浅黄色 断面：埋土	白、2.5mm以下の 褐色、白色、片岩 多量	反転復元	
75	国18 写真版 21	再生土器 壺	215	21区北 第1面	1195 5.8 6.8+ -	50%	内面削除状工具によるナダ、 内面ラクエリとユビオサ ナナ	外面：に白い黄 内面：に白い褐 断面：浅黄色、褐 色化	白、1~3mmの片 岩(少)、1 ~2mmの石英、赤 色化少量	一部反転復元	
76	国18 写真版 21	再生土器 壺	708	5区6.3 4層	(15.0) 2.3+	口縁部 15%	口縁部 内面へ縁剥ヨコナダ、ロ ジ縫合剥離、背面ヘマガ キカ。	外面：二三ぶつ白 内面：埋	白、1mm以下の白 色化少量	反転復元	
77	国18 写真版 21	再生土器 肥込口壺	653	4区 埋土	3121 (16.8) 3.1+	7%以下	内外面ナナ、凹面文の上に 貼付竹管文	外面：明褐色 内面：灰白 断面：埋土	白、1~2mmの砂 粒、少苔、赤色化 鉛化少量	反転復元	
78	国18 写真版 22	再生土器 壺台	653	再生土器 台	4.1+ 3121 (15.8)	9%以下	内面ナナ、外面凹面文	外面：浅黄色 内面：浅黄色 断面：灰白	白、1~2mmの砂 粒、石灰、鶴卵 含む	反転復元	
79	国18 写真版 22	再生土器 壺	518	2-2区 第2面	2096薄 第1面 (14.0)	5.4+	口縁部 ~削除 17%	内面アズリ後ナダ等7、 群 成2.0調整不明厚。外 面削除あり。口縁部ヨコナ ダ、内面や軽い平行タタキ	各断面：に白い黄 色化 外面：に白い砂 内面：灰黄褐色	やや密 1.5mm以下の 片岩、白色化 少量	反転復元
80	国18 写真版 22	土師器 有孔鉢	439	2-2区南 第1面	2154 4.3+ 5.1	底部 70%	内面削除により調整不明厚。 外 面削除あり。内面から外 面削除され。外面平行タタキ	外面：に白い砂 内面：浅黄色 断面：オーブル黑	2mm以下の片 岩多量	一部反転復元	
81	国18 写真版 22	再生土器 有孔鉢	492	2-2区 有孔鉢	2096 第1面 (12.4)	8.1+ (12.4)	削除 70%	内面削除、背面内面ヒビオ サナ、口縁部ヨコナ ダ	外面：明褐色 内面：に白い褐	やや粗 3mm以下の 石灰、灰色化少 量	一部反転復元
82	国18 写真版 22	土師器 広口壺	491	2-2区 第1面	2948 16.4) 5.4	口縁部 20%	内面削除、背面内面ヒビオ サナ、口縁部ヨコナ ダ	外面：に白い褐 内面：灰白	白、1.5mm以下の 灰色化少量	反転復元	
83	国18 写真版 22	土師器 広口壺	263 246	2-2区中央 2-2区南	211~297 第1層9 (灰土) 第1面 (18.3)	10.3+ (10.9)	口縁部 ~削除 40%	内面削除状工具によるヨコハ ケ、内面ヨコナダ及びタテ ハケ、内面ユビオサナ	外面：灰白 内面：褐灰、に白 い黄色 断面：灰黄褐色	白、1.5mm以下の 白色、黑色、片岩 多量	反転復元
84	国18 写真版 22	土師器 広口壺	99	2区12	(19.5) (27.5)	削除~ 体部 70%	内面削除のため調整不 明厚。内面に細かいヨコハ ケ、外面タテハケ、外面上に黒斑 あり	外断面：に白い褐 内面：に白い黄 色化、黑	白、1mmの赤色 化鉛化少量	一部反転復元	
85	国18 写真版 22	土師器 広口壺	269+ 254	2-2区北	(16.1) 6.0+	口縁部 25%	内面に黒斑あり、内面一部 ヨコハケ、口縁部ヨコナダ、 内面へ削除跡みあり	外面：明褐色 内面：灰白	白、1mm以下の白 色化少量	反転復元	
86	国18 写真版 22	土師器 壺	447	2-2区 第1面上	4.7+	削除 50%	内面無黒斑、整理のため 削除不相應。背面タテ方向 の工作、横状2段波状あり、 シャープ型に欠ける	外面：灰白 内面：埋土 断面：埋土	白、4mm以下の片 岩、白色化少量	反転復元	
87	国18 写真版 22	土師器 二重口壺	32	4層上面 精査 第1道 精査	(13.0) 3.0+	口縁部 0%以下	内面タテ方向のヘマギ キ、外面タテ方向のヘマギ キ、貼付竹管文あり。 内面削除の唐土部分に貼 付竹管文	外面：に白い褐 内面：灰 断面：埋土	白、1mm以下の白 色、赤色化鉛化 少量	反転復元	
88	国18 写真版 22	土師器 二重口壺	447 (250)	2-2区 第1面上	(15.4) 2.4+	口縁部 20%	内面黄状文2段、外面ヨ コナダ、貼付竹管文あり。 口縁部削除の唐土部分に貼 付竹管文	外面：に白い褐 内面：ヨコナダ、ロ ジ縫合部 内面下部に貼 付竹管文	白、3mm以下の片 岩、白色化多量	反転復元	
89	国18 写真版 22	土師器 二重口壺	365	2-2区中央 2-2区南	2029 第1面 (14.8)	2.8+	口縁部 0%以下	内面に2段の波状文2段、 内面ヨコナダ、ロジ縫合部 内面下部に貼付竹管文	外面：に白い褐 内面：灰 断面：埋土	白、1.5mm以下の 赤色化鉛化、片岩 少量	反転復元
90	国18 写真版 22	土師器 二重口壺	29	2区1	2 (17.0)	5.4	口縁部 0%以下	内面ヨコナダ、外面ヨコナ ダ、貼付竹管文	外断面：灰褐色 内面：埋土	白、2.5mm以下の 白色化少量	反転復元
91	国18 写真版 22	土師器 二重口壺	329	2-2区中央 2-2区南	2193北半 第1面 (31.3)	6.8+	口縁部 10%	貼付竹管文、内面削除によ り調整不明厚	外断面：に白い褐 内面：灰 断面：埋土	白、3mm以下の片 岩多量	反転復元
92	国18 写真版 22	土師器 壺	458	2-2区 第1面	2063 (15.8)	3.4+	10%	内面削除のため調整不明厚。 内面ハケ、組合せテ	外断面：に白い褐 内面：灰 断面：灰	白、1mm以下の赤 色化鉛化少量	反転復元
93	国18 写真版 22	土師器 壺	657	4区	3121 褐色 (2)	5.0+ 4.6	底 50%	削除により調整不明厚だが 内面にハラミガキ、外面上にタ タタキ方向のナダあり。内外 面ナナ	外断面：灰白 内面：埋土	白、2~6mmの砂 粒、1~2mmの砂 粒、赤色化鉛化、 石英含む	反転復元

番号	図・図版	監査番号	種類	基準	地区	通過	法面 (cm)		残存率	形態・技法	色調	地土	備考
							口径	高さ					
94	写真図版 22	272	土師器 甕	第4層 米土竈下 包丁窓	2-2区中央	(13.2)	3.5+		口縁部 内面～口縁部ヨコナヂ、外 面斜行タキ	内外面：灰褐色 断面：灰白	やや茶 1~2mm以下 の白苔、灰色斑 点跡少量	反転復元	
95	写真図版 22	464	土師器 甕	2029 第1面	(12.4)	7.3+	—	5%以下	内板状工具によるナヂ、 口縁部内外面ナヂ、外面タ キ	内外面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、石英、赤色酸 化物含む	反転復元	
96	写真図版 23	531	土師器 甕	2-2区	2034 第1面	(15.2)	1.1+	5%以上	磨滅により調整不明瞭。内 外面ナヂ、口縁部内面ナ ヂ、口縁部斜行引目ナ ヂ	内外面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物少 量	反転復元	
97	写真図版 23	329	土師器 甕	2-2区中央	2193 第1面	(17.0)	4.2+	5%以下	磨滅により調整不明瞭。内 外面ナヂ、口縁部内面ナ ヂ、口縁部斜行引目ナ ヂ	内外面：灰褐色 断面：灰褐色	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物含 む	反転復元	
98	写真図版 23	491	土師器 甕	2-2区	2048 第1面	—	2.1+	2.9	5%以下	磨滅により調整不明瞭。外 面ナヂとヨコオザ	内外面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、石英、白色粘 土、赤色酸化物含 む	反転復元
99	写真図版 23	487	土師器 甕	2-2区	2036 第1面	—	2.1+	(4.6)	5%以下	内板状工具によるナヂ、 外面ヨコオサエタキタキ 底部ナヂ	内外面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物含 む	反転復元
100	写真図版 23	481	土師器 甕	2-2区	2154 第1面	—	2.0+	3.7	5%以下	内板状工具によるナヂか、 外面タキ。底部付近に複 合施らしき痕残る	内面：灰褐色 断面：に若い	茶 1~2mmの砂 粒、石英含む	反転復元
101	写真図版 23	634	土師器 甕	3区	上取穴 2 ショット	—	1.6+	3.2	5%	内外面ナヂ、外面タキ。底 部付近、ナヂ	内外面：灰褐色 断面：灰白	茶 1~2mmの砂 粒、石英、白色粘 土、赤色酸化物含 む	反転復元
102	写真図版 23	319	土師器 甕	2-2区中央	2184 第1面	—	2.2+	4.4	底部 70%	内板状工具によるナヂ、 外面平行タキ。外面に黒 斑2箇所あり	内面：に若い 褐色	やや茶 2.5mm以 下の白苔、白色粘 土、石英微量	一部反転復元
103	写真図版 23	554	土師器 甕	2-2区	2033 第1面	—	3.2+	2.8	底部 70%	内板状工具によるナヂ、 外面平行タキ。底部ナ ヂ、外面に黒斑あり	内面：灰白 断面：灰褐色 外面：灰黑	やや茶 1mm以 下の白苔、灰色少 量、3mmの大石英 斑	一部反転復元
104	写真図版 23	908	土師器 甕	1-2区	第3層 人骨施前	—	2.5+	2.8	底部 50%	底部ナヂ。外面平行タキ	外面：に若い、粗 面	茶 2.5mm以 下の白苔多量	一部反転復元
105	写真図版 23	89	土師器 小型甕	No.12付近	28 埋土	—	2.0+	2.1	底部 99%	内面工具によるナヂ、タ タキナヂ+ヨコオサエ	内面：灰褐色 断面：に若い	茶 1.5mm以下 の白色、赤色酸化 物微量	一部反転復元
106	写真図版 23	24	土師器 甕	No.1	—	3.1	1.3+	底部 90%	内面ヨコオサエ+ナヂ。 外面平行タキ。底部ナ ヂ	内面断面：明赤褐色 外面：灰白	茶 2.5mm以 下の片岩、白色、 チャート多量	一部反転復元	
107	写真図版 23	323	土師器 甕 or 瓢	2-2区中央	2198 第1面	—	1.1+	2.6	5%以下	内面ナヂ。外面ヘラタキ 底。部ヨコオサエ強く残 る。底部強いナヂ。体部1 部のみ	内面：灰褐色 断面：明褐色 外面：灰白	茶 1~2mmの砂 粒含む	反転復元
108	写真図版 23	28	弦生土器 甕	No.1	土取穴 北	—	3.9	4.2	底部～ 体部 70%	磨滅により内面調整不 明瞭。底付近工具によるナ ヂ。外面平行タキ。底部ナ ヂ。部ヨコオサエ強く残 る。底部強いナヂ。体部1 部のみ	内面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、白色粘合土 4~5mmの砂粒、 白色骨少量	反転復元
109	写真図版 23	522	土師器 甕	2-2区	2081 第1面	—	4.4+	(6.6)	5%以下	内面磨滅により一部調整不 明瞭。底付近工具によるナ ヂ。外面平行タキ。底部ナ ヂ	内面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、白色粘合土	反転復元
110	写真図版 23	533	土師器 甕	2-2区	2506 第1面	(12.0)	4.1+	5%以下	内面磨滅により調整不明瞭 が底外面ヘラミガキ	内面：明褐色	茶 1~2mmの砂 粒含む	反転復元	
111	写真図版 23	266	土師器 甕	2区北	2104 第1面	—	4.0+	4.3	5%以下	内面ナヂ。外面タキ底、 底部ヨコオサエ、底部ヨコ オサエ強くナヂ。一部ナヂ あり	内面：灰褐色 断面：明褐色	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物含 む	反転復元
112	写真図版 23	305	土師器 楕円高环	2-2区	2194 第1面	(15.0)	3.7+	5%以下	磨滅により調整不明瞭。内 外面ナヂか	内面：灰褐色 断面：灰	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物含 む	反転復元	
113	写真図版 23	447	土師器 楕円高环	2-2区	第1面上	(14.0)	3.2+	底部 40%	磨滅により調整不明瞭。 内面ヘラミガキ。口縁部外 面ヨコナヂ	内面：に若い 褐色	茶 1~2mmの赤 色酸化物微量	反転復元	
114	写真図版 24	570	土師器 高环	2-2区	東壁 床土下	(14.9)	5.5+	底部 80%	内面タキ。口縁部ヨコ ナヂ。内面に黒斑あり	内面：に若い 褐色	茶 1~4mm位の 石英少量。1~2 mmの赤色酸化物少 量	一部反転復元	
115	写真図版 24	472	土師器 高环	2-2区北	2504 第1面	—	3.7+	4.1	5%以下	外面ヘラミガキか。脚部内 面ヨコオサエ強く。脚部に 骨孔2箇所	内面：に若い 褐色	茶 1~2mmの砂 粒、赤色酸化物含 む	反転復元
116	写真図版 24	528	土師器 楕円高环	2-2区	2092 第1面	—	3.7+	(10.0)	10%	内面ナヂ。穿孔1ヶ所	内面断面：浅黃褐色	茶 3~4mmの砂 粒含む	反転復元
117	写真図版 24	263	土師器 楕円高环	2-2区中央	第4層中 床土下	—	5.1+	(10.0)	脚部 30%	内面ナヂか。外面ヘラタキ。 脚部ヨコナヂ。穿孔2箇所 下2~4ヶ所	内面：に若い 褐色	茶 1~2mmの石 英少量。1mm の赤色酸化物少 量	反転復元

番号	国・固形 登録 番号	種類 器種	地区	機種 部位	法 規 (cm)	法 規 高さ 口径	法 規 底径	残存率	形態・技法	色 調	地 土	備 考	
118	写真図版 24	土師器 有蓋杯	2-2区北	黒色砂 礫層中 土器	8.0*	(12.5)	脚部 60%	内面削減のため調整不規則、 外曲タテハケ・ユビオサエ	内外断面：灰白	やや粗 2mm以下 の石英・赤色陶化 物多量	粘 一部反転復元		
119	写真図版 24	土師器 杯脚杯	2区	清水透 青釉 第1層 (少陶斑) 第2層 相当	5.3*	6.5	50%	内面ナデ、外曲ナデ、脚部 ユビオサエ、底蓋ナデ、底 端部ナデ	外面：褐 内面：浅黃褐 断面：褐灰	褐 1~2mmの砂 粒・石英・赤色陶 化物含む	一部反転復元		
120	写真図版 24	土師器 甕	2-2区	2005 第1面	(23.4)	—	5%以下	内面にヨカハケ。口縁部は 施錆後にくぼむ。外曲ナデ	外面：褐 内面：にいし 断面：褐灰	褐 1~2mmの砂 粒・赤色陶化物 含む	反転復元		
121	写真図版 24	土師器 甕 or 鉢	1-2区	1113① 第1面	(10.8)	3.3	50%	内面～口縁部ナデ。外曲 ナデ	外面：褐 内面：明赤褐 断面：黑褐	褐 1mmの長石 ・石英・赤色陶化 物含む	反転復元		
122	写真図版 24	土師器 甕	1-2区	1113 ②・③ 第1面	(18.6)	6.4*	口縁部 40%	内面ナデ、口縁部ヨコナデ、 体部ナハケ。君誠のため調整 不規	外外面：明赤褐 内面：にいし 断面：にいし	褐 1~3mmの 石英・赤色陶化物 中量	反転復元		
123	写真図版 24	土師器 甕	1-2区	1113③ 第1面	(21.3)	8.9*	口縁部 50%	内面ヒビオサエ。口縁部ヨ コナデ、外曲ナハケ	外外面：にいし 内面：にいし 断面：にいし	褐 1~4mmの 石英多量、1~2 mmのチャート少 量、1~3mmの赤 色陶化物少量	反転復元		
124	写真図版 24	土師器 甕	1-2区	1113② 第1面	(18.0)	8.9*	—	口縁部ヨコナデ。外曲ナハ ケ	外面：明赤褐 内面：にいし 断面：にいし	褐 1~2mmの石 英少量、細かい チャート(?)少 量	反転復元		
125	写真図版 24	須恵器 長颈瓶	1-2区	20 45, 90, 95, 96, 98, 102, 103	1113 ②・③ 第1面 3層土器 第1 面積度	14.2*	体部最 大径 (14.8)	—	内面～口縁部、体部まで回 転ナハケ、体部下～底部回転 ヘラクズリ	外外面：灰 内面：にいし 断面：灰	褐 3mm以下の白 色粘多量、1mm の陶化物粘多量	反転復元	
126	写真図版 24	土師器 甕	1-2区	1145 第1面	(22.0)	7.2	—	—	外曲削減により調整不規 則、内面ヒビオサエ、口縁部ヨ コナデ	外面：にいし 内面：にいし 断面：にいし	褐 1~2mmの石 英・赤色陶化物少 量	反転復元	
127	国 25 36	須恵器 甕	1-2区	1154重 第1面	(12.1)	3.0*	口縁部 ~体部 9%	—	口縁部 ~体部 内外面ナデ	外面：灰 内面：にいし 断面：褐灰	褐 0.5mm以下の 白色粘微量	反転復元	
128	写真図版 24	土師器 甕	2-2区	2126 第1面	(21.0)	3.2*	—	5%以下	内外面ヨコナデ、口縁部 ヘラ切りか	外面：褐 内面：にいし 断面：褐灰	褐 1~2mmの砂 粒・石英・赤色陶 化物含む	反転復元	
129	写真図版 24	土師器 甕	2-2区中央	2189 第1面	(20.8)	3.3*	—	5%以下	内外面ヨケ目、内面から口縁 部ナハケ、外曲面の当たり、 ハケ目	外面：褐 内面：にいし 断面：褐	褐 1~2mmの砂 粒・赤色陶化物 含む、石英少量	反転復元	
130	写真図版 24	須恵器 环身	No.14	10 埋土 剥離じる	(9.9)	2.9	口縁部 ~底部 25%	—	内外面に回転ナハケ、底部付 近にヘラクズリ	外外面：灰 内面：灰	褐 1mmの大白色 粘微量	反転復元	
131	写真図版 24	土師器 小型便器	No.14	10 埋土 剥離じる	(16.6)	3.6*	口縁部 9%	—	内外面削減により調整不規 則、内外面ヨコナデ、外曲ナ ハケ	外面：にいし 内面：にいし 断面：黑褐	褐 1mm以下の灰 色、片岩多量	反転復元	
132	写真図版 2	土師器 甕	No.14	10 埋土 剥離じる	(21.0)	4.0*	口縁部 10%	—	内外面にヨコナデ、外曲ナ ハケ	外面：にいし 内面：にいし 断面：褐	褐 1.5mm以下の 片岩・赤色陶化物 ・粘多量	反転復元	
133	写真図版 25	土師器 埴輪把手	4区	3102 第1層	幅 5.3*	4.7*	2.0 × 3.6	把手の 99%	ナハケ・ユビオサエ	外面：明褐色 内面：灰白 断面：黑褐	褐 1.5mm以下の 黑色・赤色散在 物多量		
134	国 29 写真図版 25	土師器 甕	1-2区	1201 下層 7.7cm 2・3層 間 第2面	(17.2)	5.0*	—	5%以下	帶錆により調整不規則、口 縁部ヨコナデ	外面：褐～明褐色 内面：灰白～褐 断面：褐	褐 ~2mmの石 英中量、1mm下 ~1mmの赤色陶 化物少量	反転復元	
135	国 29 写真図版 25	須恵器 环身	1-2区	1202 ④+⑤ ②・③間 第2面	(11.4)	2.4*	—	5%以下	—	外面：褐 内面：灰 断面：褐	砂粒・長石少 量	反転復元	
136	国 29 写真図版 25	土師器 埴輪小瓶の 把手	1-2区	1202 ⑦+⑧ 企り足 第2面	幅 6.3*	2.2 × 5.1	把手の 99%	—	内面にユビオサエ、把手部 上部に黒斑あり	外面：にいし 内面：にいし 断面：灰褐	褐 1mmの大白色 ・黑色粘多量		
137	国 29 写真図版 25	土師器 甕	1-2区	1202 ⑨+⑩ 2・3層 間 第2面	(18.0)	7.3*	—	—	口縁部 25%	内外面削減により調整不規 則、外曲タテハケ	褐 1~5mmの 石英少量、1~2 mmの赤色陶化物 少量	反転復元	

番号	固 形 番 号	壁 面 番 号	種 類 高 さ	地区	通 路 前 位	法 規 (cm)	口 径 高 さ	底 径 直 径	残 存 率	形態・技法		色 調	地 土	備 考
										内 外 面	内 外 面			
138	国29 写真版 25	170 169	土師25 土壌	1-2区	1202 滝 土器1 第2面	(33.6)	5.7+	口縁部 ～肩部 20%	内面コピオサエ。口縁部リ コナヂ、体部外面にハケ 断面：にい・複	内面：にい・赤褐色 ・灰褐色 内面：灰茶・灰黄色 ・灰褐色 断面：灰白	黒・1mm以下の白色 ・黑色粘多糖	反転復元		
139	国29 写真版 25	498	須恵25 灰青	2-2区中央	2136 ⑤ 第1面		2.6+	天井部 径 (5.6)	20%	外面部回転ヘラケズリ 内面部回転ナヂ	内面断面：灰白	黒・1～2mmの砂 粒少量	反転復元	
140	国29 写真版 25	391	須恵器 甕	2-2区南	2148 ⑤ 第1面		4.5+	口縁部 5%	口縁部ハケ、内外面回転ナヂ	内外断面：灰	黒・2.5mm以下の 片苔・白色粘少量	反転復元		
141	国29 写真版 25	562	須恵器 甕	2-2区	2168-21日 開アゼ 第1面	(8.9)	3.7		50%	内面ナヂ。フマミ付近回 転ヘラケメリ	内面：灰 断面：にい・複	黒・1mm以下の白色 ・黑色粘多糖	一部反転復元	
142	国29 写真版 25	696	土師質器 羽茎	5区	5108 埋土	(16.9)	3.4+		5%	内外面ヨコナヂ	外断面：黒褐色 内面：灰褐色	黒・1mm以下の白色 ・黑色粘多糖	反転復元	
143	国29 写真版 25	653	須恵25 灰青	4区	3121 埋土	(11.6)	4.1		30%	内面回転ヘラケズリと回転 ナヂ、外面部回転ヘラケズリ、 口縁部回転ヘラケズリ後回 転ナヂ	内面断面：灰白	黒・1～2mmの砂 粒・白色粘少量	反転復元	
144	国29 写真版 25	659	須恵25 高杯	4区	3121 暗褐色 (上端)	(13.7)	10.2	(9.4)	40%	内面回転ナヂ。杯体下部 回転ヘラケズリ。口縁部端 ヨコナヂ、底部シボリ痕	内面断面：灰白	黒・1～6mm位の 石英少量	反転復元	
145	国29 写真版 25	653	土師25 埴輪 把手	4区	3121 埴土	幅 7.6	5.2+	径 1.1 × 4.7	把手の 穿孔あり。 全体的に押し 成形	外面：明褐色 内面：灰褐色	やや黒・2.5mm以 下的白色化粧・ 白色粘多糖			
146	国29 写真版 25	378	土師25 便	2-2区中央	2035 第1面	(21.8)	3.5+		5%以下	内面口縁部ナヂ、体部内 面テバハ	内面：板 外断面：板 内面：灰褐色	黒・1～2mmの砂 粒・石英・赤褐色化粧	反転復元	
147	国29 写真版 25	436	土師25 便	2-2区	2174 第1面	(15.4)	6.5+		5%以下	内面ヨコハケ、外面タテハ ケ、内面にヒオサエ。口 縁端部ナヂ	内面：にい・複 断面：にい・赤褐色	黒・1～2mmの砂 粒・白色化粧和合 む	反転復元	
148	国29 写真版 25	436	土師25 小型便	2-2区	2174 第1面	(17.1)	7.0+		口縁部 ～肩部 60%	内面ナヂ、口縁部ヨコナヂ 内面タテハケ	内面：にい・赤褐色 内面：浅黄褐色・に かぶつ開	黒・1mm以下の白 色・灰色粘多糖	反転復元	
149	国29 写真版 25	79	土師25 便	No.14	15 埋土	(27.9)	2.9+	口縁部 10%	内外面削減により調整不 明瞭。口縁部に凹面めぐ る。	内面：浅黄褐色 断面：灰褐色	黒・1mm以下の赤 色化粧粘多糖	反転復元		
150	国29 写真版 26	246	土師25 高杯	2-2区南	2107 第1面		9.3+	(11.0)	45%	頂部により調整一部内側 出し・ぼり放り。高杯内 面・脚部端面に回転ナヂ、 脚部端部回転ヘラケズリか ら	内面：板 内面：灰褐色 断面：灰褐色	黒・1～2mmの砂 粒・白色化粧和合 む	一部反転復元	
151	国29 写真版 26	560	土師25 高杯	2-2区	2201 滝高 第2面	(11.7)	8.7+		60%	削減のため調整不明 顯	内面：板 内面：灰褐色 断面：灰褐色	黒・1mm以下の白 色粘少量	一部反転復元	
152	国29 写真版 26	559	土師25 高杯	2-2区	2201 第2面		9.5+		50%	柱状部ヘラミガキ。环内底 部・ヘマタコカ。	内面：にい・複 断面：灰白	黒・1.5mm以下の白 色・赤褐色粘多糖	一部反転復元	
153	国29 写真版 26	340	土師25 高杯	2-2区中央	2065 第1面		12.5+		40%	削減により調整不明 顯。内面削り底あり。内外面 ナヂ	内面：浅黄褐色 内面：板 断面：灰白	黒・1～2mmの砂 粒・赤褐色化粧和 む	一部反転復元	
154	国29 写真版 26	651	土師25 便	4区	3119 埋土	幅 23.4	5.8+		5%以下	内面コピオサエ。内外面ナ ヂ。外面部の一部にハケ	外断面：板 内面：にい・複	1～2mmの砂粒・ 石英・赤褐色化粧 和合む	反転復元	
155	国29 写真版 26	217	土師25 便?	1-1区南	造層?	(26.3)	10.3+	口縁部 ～体部 8%	内面削減により内面調整不 明顯。内面ヒオサエ。外 面ヒオサエとタテハケ	内面：にい・複 断面：灰白	黒・1mm以下の白 色・赤褐色粘多糖	反転復元		
156	国29 写真版 26	998	土師25 埴輪 把手	1-2区	第3層 入力削削	幅 4.6+	4.7+	径 2.6 × 4.2	把手の 95%	コピオサエ。ナヂ	外面：浅黄褐色へ にい・複 内面：明褐色 断面：灰褐色	黒・2.5mm以下の白 色・白色粘多糖		
157	国29 写真版 26	005	土師25 埴輪 把手	1-2区	第3層 床土1 第1面 積重 入力削削	幅 5.1+	4.2+	径 1.9 × 3.6	把手の 95%	外面部コピオサエ	内面：にい・複 断面：灰褐色	黒・1.5mm以下の白 色・白色粘多糖		
158	国29 写真版 26	85	須恵25 环	No.13付近	23 埋土	(14.0)	2.5+	口縁部 ～体部 8%	外面部削減によりやや調整不 明顯。内外面回転ナヂ	内面：灰 断面：灰白	黒・1mm以下の 酸化過元粘多糖	反転復元		
159	国29 写真版 26	144	須恵25 环	1-2区	第5層 (第1層 -1)	(13.2)	3.0+		5%以下	底面回転ヘラケズリ。内 外面部回転ナヂ	内面：灰 断面：灰白	黒・かい・白色 粘多糖	反転復元	
160	国29 写真版 26	144	須恵25 环	1-2区	第5層	(11.3)	3.0		20%	底面外面部回転ヘラケズリ。 内面～体部外面部回転ナヂ	内面：灰白 断面：灰	黒・1～5mm位の 石英中量	反転復元	

番号	国・国際 登録 番号	種類 器種	地区	構造 部位	法 令 規 定 の 項 目	法 令 規 定 の 高 さ と 底 径	残存率	形 状 ・技 法	色 調	地 土	備 考		
161	写真図版 26	頭蓋器 272	頭蓋器 2-2 区	第4層 (未上塗) 包含層	(12.5)	1.7+	5%以下	脳膜により調節不明 内外断面:灰白	墨 1mm以下の白色粘液	反転復元			
162	写真図版 26	頭蓋器 27	頭蓋器 1-2 区	第3層 人骨断層	(12.0)	3.6	2%	内外表面回転ナゲ。底部から 外側:灰 内側:灰白	墨 1~3mmの石英少量	反転復元			
163	写真図版 26	頭蓋器 27	頭蓋器 1-2 区南	第4層中 (未上塗)	(12.2)	3.1+	5%以下	内外面回転ナゲ。全体的に 脳膜厚い。	内面:灰 内側:灰黄 外側:黑褐	墨 1~3mmの石英中量	反転復元		
164	写真図版 26	頭蓋器 27	頭蓋器 3 区	土取穴 (未上塗)	9.7	3.2	5.8	内外表面回転ナゲ。体部下回 転へカケリ後回転ナゲ。 底部回転へ切り	内面:灰 内側:灰黄 外側:灰白	墨 1~2mmの砂粒、 共石、石英少量			
165	写真図版 26	頭蓋器 27	頭蓋器 1-1 区	第3層	(10.0)	3.5+ (6.4)	10%	内外表面回転ナゲ。体部下回 転へカケリ後回転ナゲ。 底部回転へ切り	内面:黄灰 外側:灰白	墨 1~2mmの砂粒、 共石少量	反転復元		
166	写真図版 26	頭蓋器 27	頭蓋器 1-1 区	第1面 精査	-	(1.4)	高台部 30%	脳膜により調節不明瞭。内 外表面回転ナゲ。點立高台	内面:灰白 外側:灰白、木部 内側:灰黄	墨 1~3mmの石英 少量、細かい赤色粘 物化物	反転復元		
167	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 5 区	包含層 No.2	無	1.2+	5%以下	横み付近回転ナゲ。体部回 転へカケリ	内面断面:灰白	墨 1~2mmの長 石少量	一部反転復元		
168	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 1-2 区	第3層 床下 第1面 精査 人骨断層	-	3.2+	5%以下	内外表面回転ナゲ。ロ繩部や 外骨板。端部は面を作つた	内面:灰 外側:黄灰	墨 1~3mmの石英 断面のみ			
169	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 2-2 区南	第4層中 (未上塗) 包含層 (未上塗)	(19.6)	4.2+	ロ繩部 5%	内外表面回転ナゲ	内面:灰 外側:灰白	墨 1mm以下の白色粘液	反転復元		
170	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 2-2 区南	216A 第1面	-	5.8+		機能不良	内面:灰白 外側:墨	墨 1~2mmの砂 粒少量			
171	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 No.12付近	人骨断層 第1面 構造	-	5.1+		頭部へ 横溝 25%	内面回転ナゲ。体部内面へ ラフ工具によるナゲ。外面 タテ方向の凹縫の下に波状 文	内面断面:灰 外側:白	墨 1mmの大白色 粘液量	反転復元	
172	写真図版 27	頭蓋器 27	頭蓋器 2-2 区中央	第4層中 第1面 相当?	2L1	6.4	10.1	70%	内面→外面回転ナゲ。体部 外側のみ回転へカケリ	内面断面:灰	墨 2mm以下の白色粘液		
173	写真図版 27	土製品 棒状土塊	2-2 区	2095 第4層 未上塗 包含層	長さ 4.1+	1.6 × 1.7	-	50%		外面:褐灰 断面:にぶい褐	墨 1mm以下の灰 色粘液量		
174	写真図版 27	土製品 棒状土塊	2-2 区中央	第4層中 未上塗 包含層	長さ 6.8+	幅 2.5	厚さ (2.1)	70%		外側面:にぶい褐	墨 1mm以下の白色 粘液量		
175	写真図版 27	土製品 管状土塊	1-2 区	第2層 人骨断層 削除時	長さ 4.5	1.0 × 1.1	重量 5.61g	管状。片面黒膜あり	内面断面:明暗部～ 灰灰	墨			
176	写真図版 27	土製品 管状土塊	1-2 区	第2層 人骨断層 削除時	長さ 4.5	1.2 × 1.3	重量 6.36g	管状	内面断面:明暗部～ 灰灰	墨			
177	写真図版 27	土製品 管状土塊	1-2 区	第5層 (第1層 -?)	長さ 9.4+	径 4.2 × 4.0	重量 156g	90%	管状。大型。一部欠損	内面:にぶい黄 褐色～薄 墨	墨 1mm以下の 白色粘液量		
178	写真図版 27	泥炭系器 具付碗	3 区	3180 黒褐色土	(9.2)	4.5	高台径 (0.5)	ロ繩部 ～高台 部 45%	外表面梅花文、高台部近くに 重複	内面:灰白、青灰 内側面:灰白	墨	反転復元	
179	写真図版 27	泥炭系器 具付碗	3 区	3180 黒褐色土	(11.9)	6.2	高台径 (4.6)	ロ繩部 ～高台 部 55%	見込みに「宝」。一重環 ～高台部 55%	内面:明緑灰、 暗青灰 内側面:灰白	墨	反転復元	
180	写真図版 27	土質冒頭 器	3 区	3180 黒褐色土	(32.4)	3.8+	-	ロ繩部 ～高台 部 75%	ロ繩部に2個1対の頸突、 内側面ヨコナギ。外側スム ク付着	内面断面:にぶい褐 色	0.5mm以下の 白色粘液量	反転復元	
181	写真図版 27	軒丸瓦	3 区	3180 黒褐色土	14.9	厚さ 2.6	長さ 12.1+	瓦頭～ 瓦足 60%	瓦頭～ 瓦足 20%	内面:均等な唐草文、 瓦頭面に蝶型付着	内面:黑 内側面:灰	墨	
182	写真図版 27	軒丸瓦	3 区	3180 黒褐色土	(5.9)	-	-	-	-	内面:均等な唐草文、 瓦頭面に蝶型付着	内面:黑 内側面:灰	墨	
183	写真図版 27	調文土器 瓦	No.1	土取穴	(19.7)	3.1+	-	ロ繩部 10%	ロ繩部 ～高台 部 55%	内面に均等調節不明瞭、 瓦頭部に蝶型付着	内面:褐灰 内側面:にぶい褐 色	小やけ 2mm以下の 白色粘液量	反転復元
184	写真図版 27	土製品 トランカ	3 区	サブトレ 2	3.1	4.8	1.9 × 2.1	95%	ナゲ・ユビオサエ。瓦質	内面:褐灰 内側面:灰	墨 1mmの大白色 粘液量		

番号	図・版面 記録番号	登録 番号	種類 器種	地区	遺構 層位	法 長さ 幅 厚さ	法 長さ 幅 厚さ	残存率	形態・技法	色 調	胎 土	備 考	
187	写真図版 27	682	瓦器 碗	5区 No.1	包含層	(15.0)	2.9+	-	無	表面により内外面調整不明瞭 内外面：暗灰 断面：灰白	黒	反転復元	
188	写真図版 28	645	地縫陶器 すり鉢	4区	壁壇4-1	(31.2)	5.5+	-	5%以下	口縁部回転ナデ。外曲体部 外曲：灰褐色へに赤 内曲：赤 底面：明赤褐色	黒 1～2mmの石 英、チャート少量	反転復元	
187	写真図版 28	685	瓦質土器 灰陶とし て 火鉢	5区 No.2～3	包含層	15.8	5.0	(15.0)	5%以下	内外面ナデ。口縁部へラクタ グリ後ナデ。内面スス付着	黒 1～2mmの砂 粒・斑石含む	反転復元	
188	写真図版 28	697	土師器 盆	1-3区 42-43層	1301	14.6	3.4	8.4	80%	内外面回転ナデが、底部回 転未切痕	黒 1mm以下～2 mm位の赤色酸化鉄 多量		
189	写真図版 28	692	便器 便	1-3区 第3層	1301	(35.6)	4.7+	-	5%以下	内外面回転ナデ。外面波状 文2段	黒 1～2mmの石 英中量	反転復元	
190	写真図版 28	599	土師器 把手	1-3区東 第2面	1241	幅 (6.6)	5.5	径 3.2× 3.2	?	磨擦のため調整不明瞭だが ナデが	黒 内面：暗灰 断面：灰	黒 1～2mmの石 英多量	

表3 且来V遺跡及び且来VI遺跡観察表（石製品）

法量の()内は復元した大きさ。*はそれ以上。

色調は土色粘を基にして、マンセル記号を勘定している。

番号	図・版面 記録番号	登録 番号	種類 器種	地区	遺構 層位	法 長さ 幅 厚さ	法 長さ 幅 厚さ	残存率	形態・技法	色 調	胎 土	備 考
S-1	写真 図版 28	100	石器 刮片	2区 No.9	4層	2.9+	2.1	0.5～ 0.7	-	加工痕らしき痕跡あり。未 製品の可能性有る	内外断面：灰 石材：サスカイト	重量:4.39g
	写真 図版 28	50	石器 刮片	1区 No.3	包含層 下層西側	2.2	2.2	0.3	-	一部に未加工面残る	内外断面：灰 石材：サスカイト	重量:2.17g
S-2	写真 図版 28	601	石器 石磚	1-3区 第4層 (含む)	南北横柵 第5層 (第4層 含む)	長さ 5.7+	幅 0.7～ 1.3	厚さ 0.55 ～0.7	90%以上	先端部及び刃の一部に欠損 あり	外表面：灰 断面：黒	石材：サスカイト 重量:5.13g



1 且来V遺跡調査前
(北東から)



2 且来V遺跡1区完掘
状況 (北から)



3 且来V遺跡2区完掘
状況 (北から)



1 土坑遺物出土状況
(北から)



2 土坑土層断面
(東から)



3 土坑遺物出土状況
(東から)

1 2 土坑土層断面
(東から)



2 3・4 土坑土層断面
(東から)



3 27 土坑土層断面
(東から)





1 R3-2・3 土坑土層断面
(西から)



2 52 溝土層断面
(西から)



3 170 溝全景 (北から)



1 170 溝土層断面
(南から)



2 9 柱穴土層断面
(西から)



3 12 柱穴土層断面
(北西から)



1 11 柱穴土層断面
(東から)



2 14 柱穴土層断面
(東から)



3 大規模整地痕跡
(西から)



1 2206 方形周溝墓土層
断面（東から）



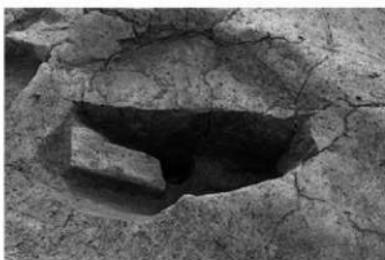
2 2201・2204 溝土層
断面（北から）



3 2201・2204 溝完掘
状況（北西から）



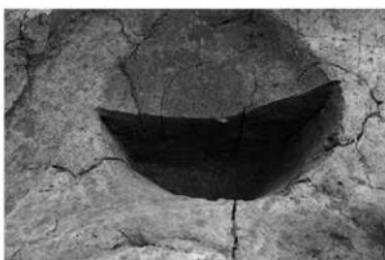
1 1 挖立柱建物 南側柱穴列（西から）



2 1 挖立柱建物 1232 柱穴土層断面（北から）



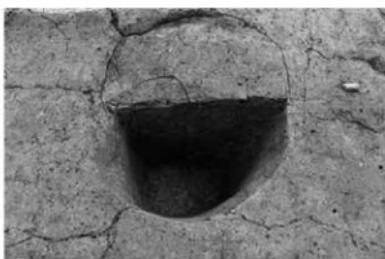
3 1 挖立柱建物 1107 柱穴土層断面（西から）



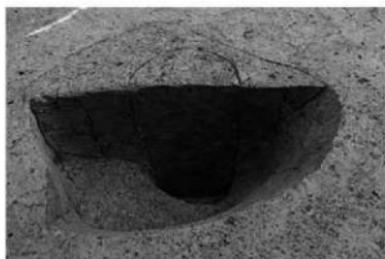
4 1 挖立柱建物 1230 柱穴土層断面（北から）



5 1 挖立柱建物 1231 柱穴土層断面（北から）



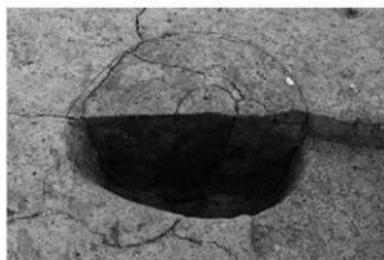
6 1 挖立柱建物 1237 柱穴土層断面（北から）



7 1 挖立柱建物 2123 柱穴土層断面（西から）



8 2 挖立柱建物 2191a・b 柱穴土層断面（西から）



1 2 振立柱建物 1223 柱穴土層断面（西から）



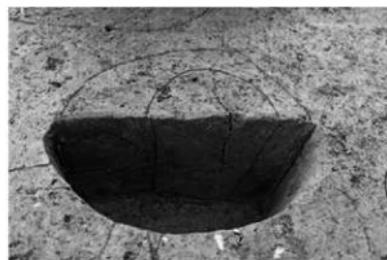
2 2 振立柱建物 2030 柱穴土層断面（東から）



3 2 振立柱建物 2122 柱穴土層断面（東から）



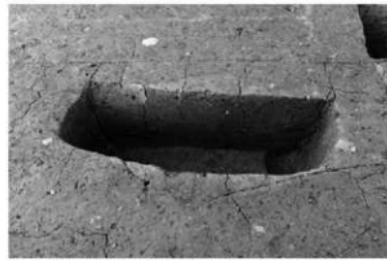
4 3 振立柱建物 2133 柱穴土層断面（南東から）

5 3 振立柱建物 2515（左）・2514（中）・2516（右）
柱穴土層断面（西から）

6 4 振立柱建物 2021 柱穴土層断面（北から）



7 4 振立柱建物 2059 柱穴土層断面（北から）



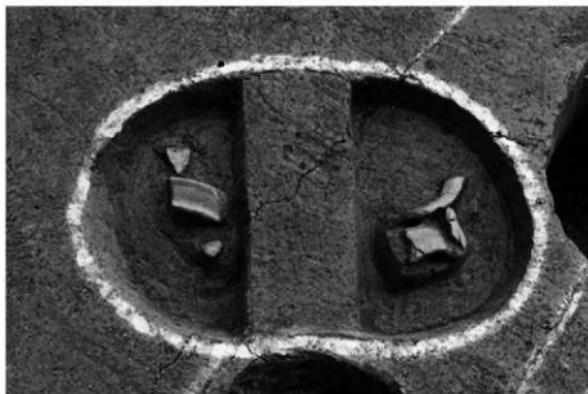
8 5 振立柱建物 2013 柱穴土層断面（東から）



1 1113 土坑土層断面
(北から)



2 1113 土坑完掘
(南から)



3 1145 土坑遺物出土状況
(西から)



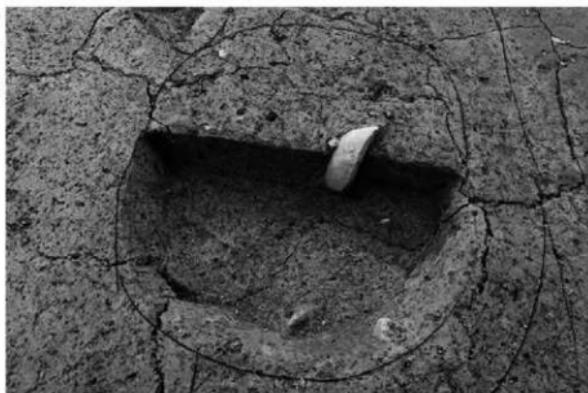
1 1145 土坑土層断面
(西から)



2 1154 土坑土層断面
(西から)



3 1154 土坑完掘
(西から)



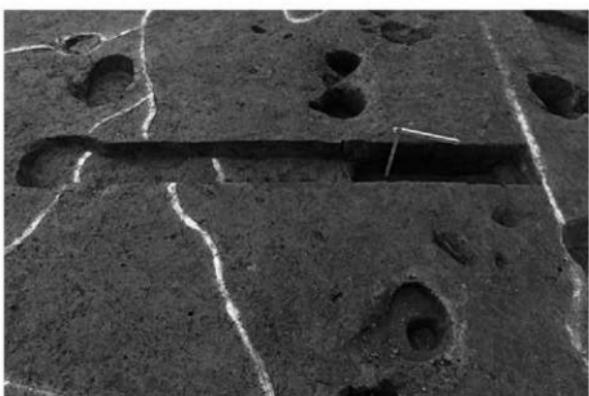
1 2152 土坑土層断面
(北から)



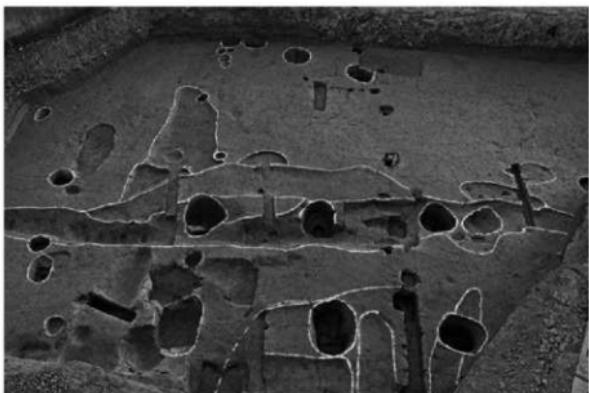
2 2189 土坑土層断面
(北から)



3 3102 土坑土層断面
(東から)



1 1201・1202 溝サブ
トレンチ土層断面
(東から)



2 1201・1202 溝完掘状況
(北から)



3 2136 溝土層断面
(北から)



1 2168 溝土層断面
(東から)



2 2136 溝完掘状況
(北から)



3 5108 溝土層断面
(西から)

1 2035 柱穴土層断面
(西から)



2 2036 柱穴土層断面
(西から)



3 3121 落ち状遺構土層
断面 (北から)





1 3121 落ち状遺構完掘
状況（北から）



2 3180 土坑土層断面
(東から)



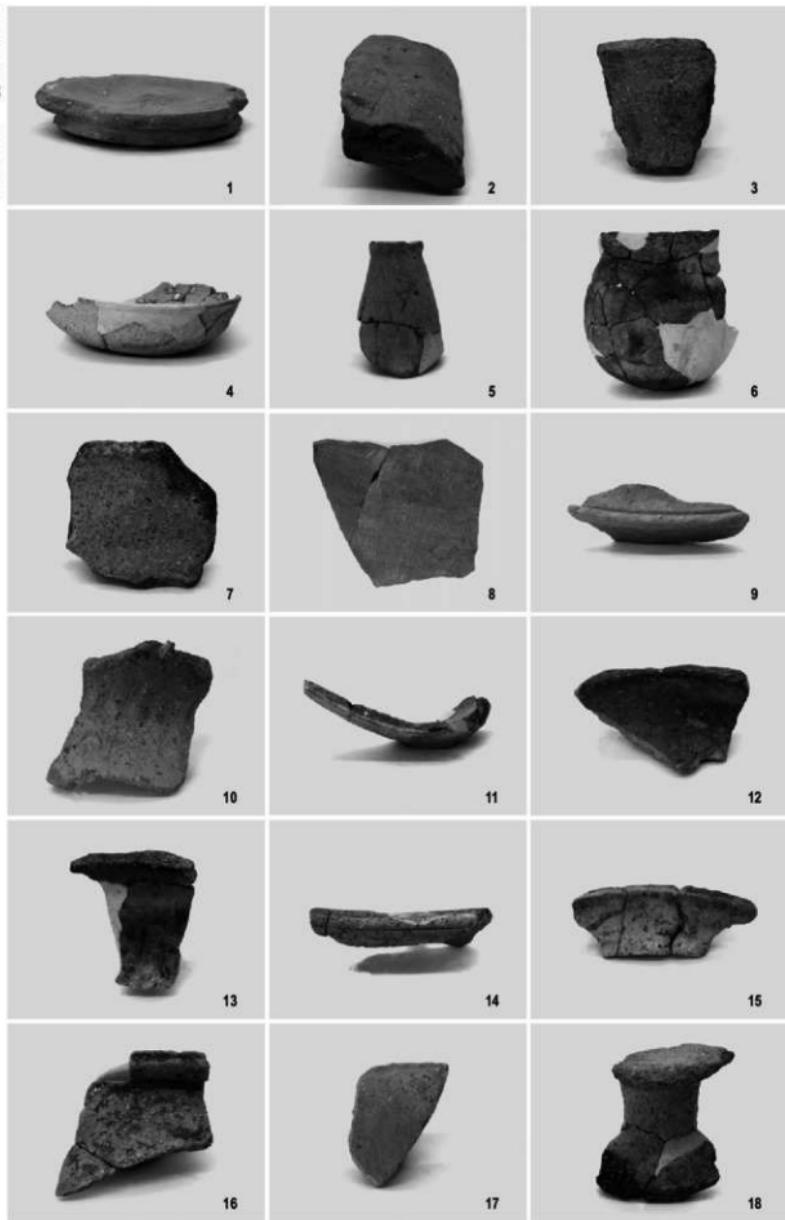
3 3185 土坑土層断面
(西から)



1 1301 溝東壁土層断面
(西から)



2 1301 溝東掘状況
(東から)







42



43



44



45



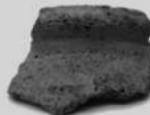
46



47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



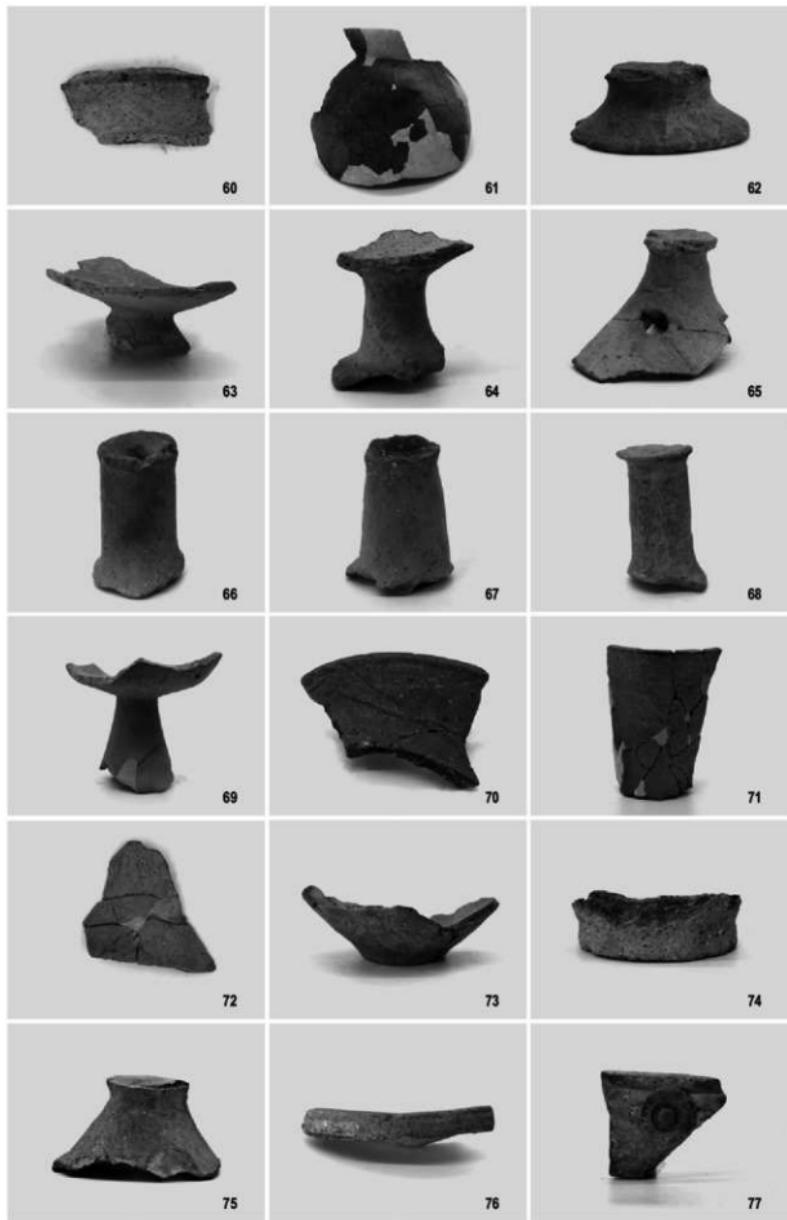
57



58



59





78



79



80



81



82



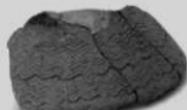
83



84



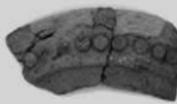
85



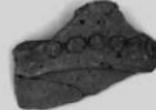
86



87



88



89



90



91



92



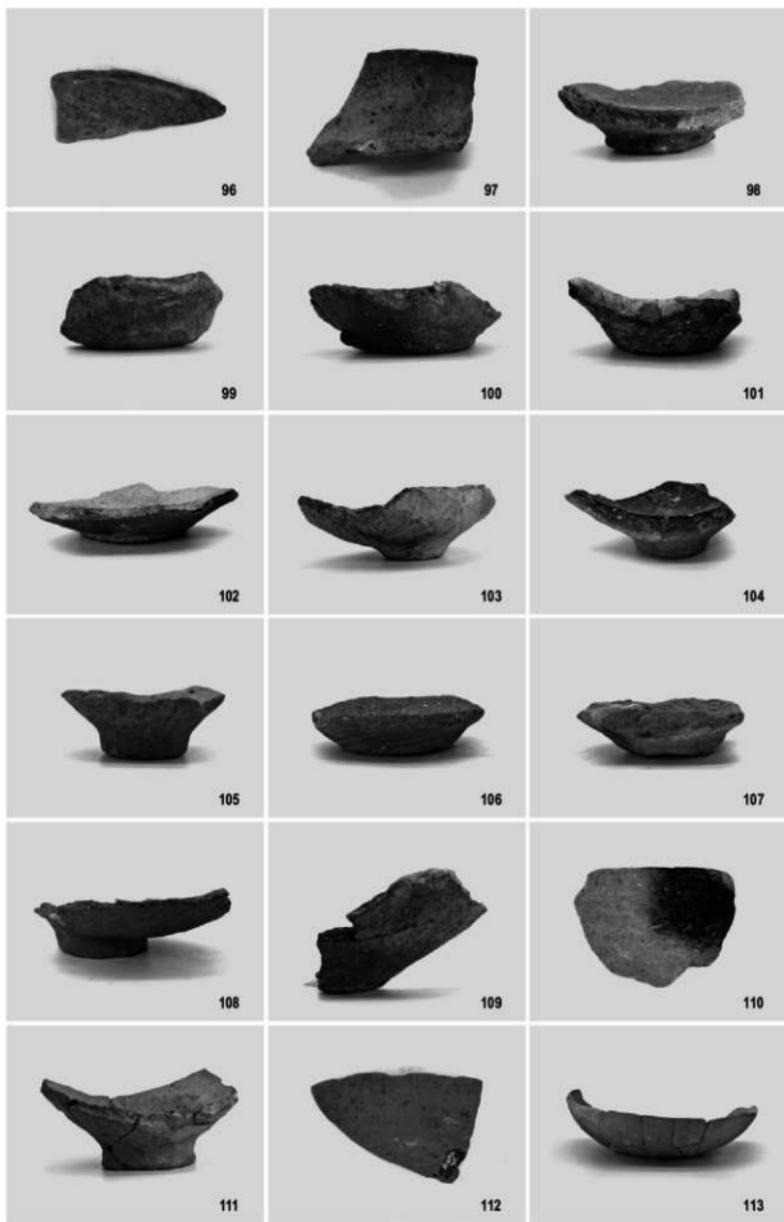
93



94



95





114



115



116



117



118



119



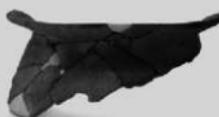
120



121



122



123



124



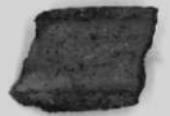
125



126



127



128



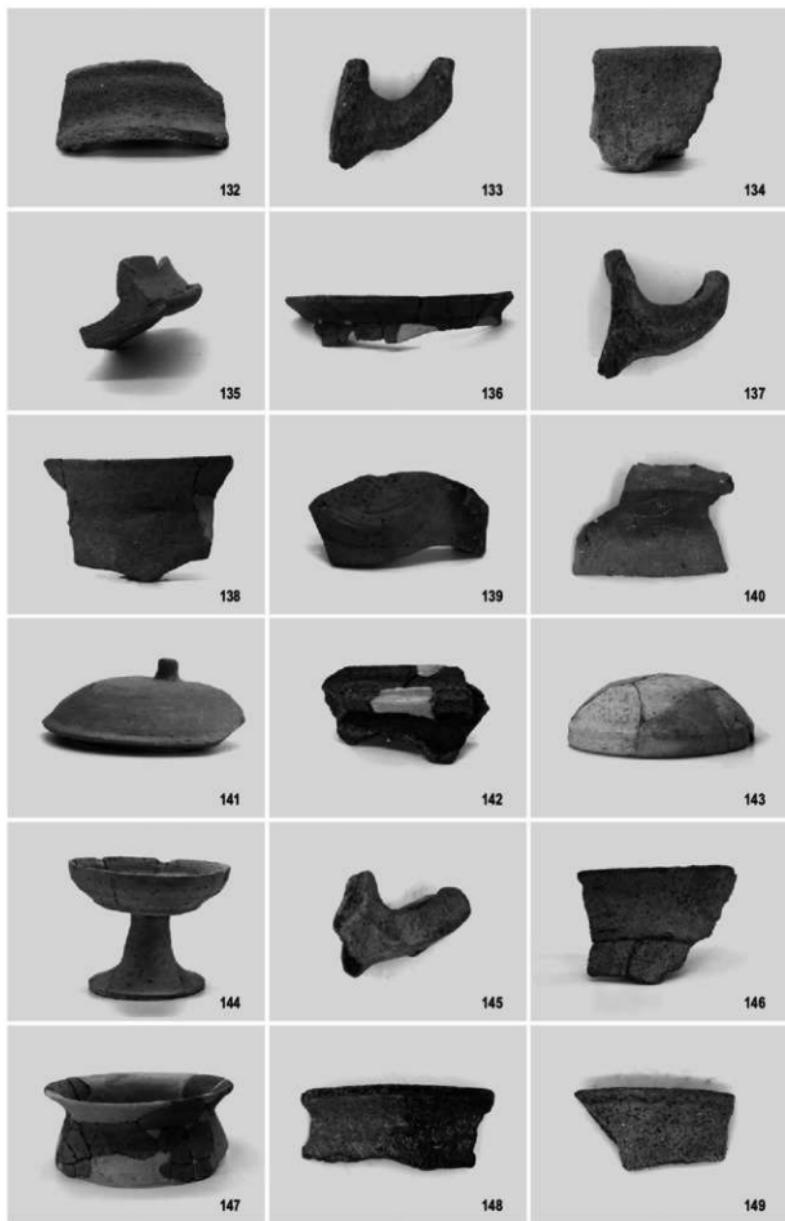
129



130



131





150



151



152



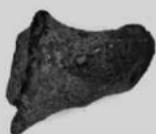
153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



182



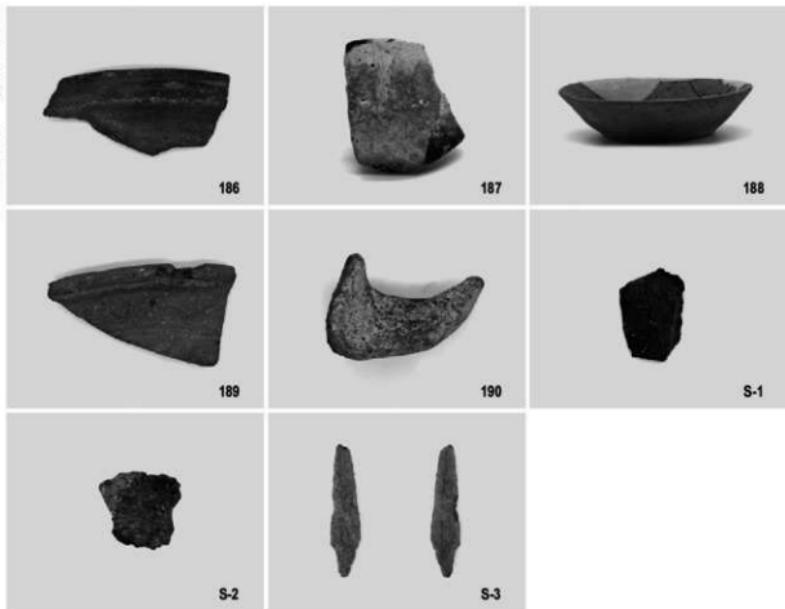
183



184



185



報告書抄録

且来V遺跡・且来VI遺跡

— 秋月海南線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 —

2023年3月10日

編集・発行：公益財団法人 和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市岩橋 1263 番地の 1

印刷・製本：株式会社 協和
和歌山県海南市南赤坂 5-3